

KÄRCHER

取扱説明書 B 300 RID 1.480-235.2



もくじ

コーションラベル	3
使用上の注意	4～13
緊急移動	14
仕様	15～16
回収プロセス	17
各部名称	18～21
作業前の準備	22～24
清掃手順 スーパーモード	25
廃棄手順 スーパーモード	26
清掃手順 スクラブモード	27
排水手順 スクラブモード	28～29
牽引・車載固定	30
メンテナンス	31～49
メンテナンススケジュール	50
トラブル対応	51～53
点滅 エラーコード	54
補修部品	55
ユーザー登録・保証	56
修理	57

コーションラベル

	聴覚保護具を着用してください。
	火傷の危険が有ります。 表面が熱くなっているため、やけどをする危険があります。 作業を開始する前に加熱部分を冷却してください。
	作業中は常に適切な手袋を着用してください。
	車の部品間に挟まれる危険が有ります。
	怪我の危険があります。 可動部位に手を入れないでください。
	火災の危険があります。 燃えていたり、くすぶっているものを回収しないでください。
	中毒の危険があります。 排気ガスを吸い込まないでください。
	固定位置
	ジャッキアップ位置
	上り坂・下り坂の勾配限度は 18% 走行に注意してください。
	転覆の危険が有ります。 コンテナを上げた状態で移動しないでください。

納品時に欠陥や輸送損傷を発見した場合は、直ちにケルヒャー担当者に連絡してください。
機械の警告と情報プレートは、安全な操作のための重要な指示を提供します。
取扱説明書に含まれている情報に加え、全ての法令・安全および事故防止規則を遵守しなければなりません。

使用用途を理解頂いた後、使用してください。
お客様の義務として日常車両整備が含まれます。

車両および付属品

作業に精通し、関連するリスクについて説明を受けた選任者が使用、保守、整備を行ってください。
管理責任者は安全および事故防止規制を遵守する必要があります。
その他適用される安全法規、労働安全衛生および道路交通規制を順守する必要があります。

取扱説明に記載された用途以外の使用は禁止されています。
弊社は、ユーザーの誤った使用から生じるいかなる危険に対し一切の責任を負いません。

使用上の注意

◎ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この取扱説明書と製品への表示では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視し誤った取り扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示を無視し誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容」を示しています。



この記号は「してはいけないこと（禁止）」を示します。



この記号は「必ず実行してほしいこと」を示します。

環境保護

梱包材はリサイクルすることができます。

運用で回収したごみ

環境規制に従い廃棄してください。

電気・電子機器には貴重な、リサイクル可能な材料が含まれており、取扱いや廃棄が不適切な場合、健康や環境に脅威を与える可能性があります。

回収したゴミに右のマークの付いている場合は家庭ごみと一緒に廃棄出来る場合があります、管轄の地方自治体に確認してください。



産業廃棄物

地方自治体の規制を遵守してください。

産業廃棄物は家庭ごみとして処理できません。

有効な安全データシートに従い梱包資材を廃棄してください。



車両の廃棄処分

車両には、貴重なリサイクル資材が含まれています。

車両の処分に関しては廃棄物管理会社と協力することをお勧めいたします。



使用時の警告



運転席以外に人を乗せないこと

子供には触らせないこと

重大事故が生じる場合があります。非常に危険です。

操作未熟者は作業を行わないこと

身体的、感覚的または精神的能力が制限されている人、経験が不足している、または知識が不足している方々の清掃用として設計されていません。

操作訓練を受講していない作業者は運転しないこと

飲酒時には絶対に運転しないこと

妊娠中の人は搭乗しないこと

車両の周りの安全が確保できない場合は運転を行わないこと

危険物や火気のある場所で使用しないこと

火災の原因となります。

防爆エリアには立ち入らないこと

火災の原因となります。

動作に不具合が有る場合は使用しないこと

不具合に伴う弊害が発生し損害を生じる原因となります。

改造禁止

火災、感電、けがの原因になります。

ケルヒャー純正部品以外の機械の性能や機能に適さない部品を使用しない。
機能を十分に発揮せず思わぬ事故のもとになることがあります。

エンジン燃料に軽油以外は使用禁止

軽油以外を使用した場合、エンジンが損傷します。

燃料をこぼさないこと

引火の危険があります。

周囲に燃料がこぼれた場合は速やかに処理を行ってください。

燃料補給時はエンジン停止すること

引火爆発の原因となります。



使用時の警告



安全装置を取外さないこと

お客様の安全を確保するための装置です。
安全装置を変更したりバイパスしたりしないでください。

シートに重量物を置かないこと

誤動作を生じる場合があります。

倉庫や車庫など閉めきった屋内でエンジンを始動しないこと

排出ガスに伴う中毒を起こします。

中毒の危険性

排気ガスを吸入しないでください。
排気ガスの開口部を塞がないでください。
排気ガスの開口部を絶対に曲げないでください。
排ガス口の内部に異物を詰めないでください。

回転部に手を入れないこと

巻込まれる場合があります。

コンテナ上昇時は格納部位に入らないこと

重大事故が生じる場合があります危険です。

コンテナ上昇時は走行しないこと

転倒する危険性があります。

ぬれた手で電源プラグを触らないこと

感電する場合があります。

本体、電源プラグに高圧水をかけないこと

漏電が生じる場合があります。

急激なハンドル操作を行わないこと

横転の危険があります。

急激なアクセルペダルの操作をしないこと

アクセルペダルはゆっくり踏み込んでください。

操舵特性に注意すること

滑りやすい路面（雪上、氷上、濡れた / ゆるい地面）、斜面で旋回操作を行う場合、急激なハンドル操作は行わないでください。

重心変動に注意すること

ダストコンテナを上げた状態で走行しないでください。

16%以上の勾配を走行しないこと

上り坂 / 下り坂の斜面を横切る操舵は注意すること

転倒の危険性が有ります。（10%以上の路面を横切るとは危険）

ボルトやナットの緩みが無いか定期的に点検を行うこと



使用時の警告



格納時はバッテリー接続線を外しキースイッチを保管すること

バッテリー・配線・排気口周辺に可燃物・燃料の付着がないことを確認すること

充電作業時はスイッチを切ること

スイッチが起動状態で充電を行うと制御系統が壊れます。

充電中は火気厳禁

充電中はバッテリーからガスが発生し引火爆発を生じる恐れがあります。

バッテリーを短絡させないこと

短絡させた場合、爆発する危険性があります。

バッテリー極板をバッテリー液から露出させないこと

バッテリーの充電作業前にバッテリー液の補充を行ってください。

バッテリーの極板がバッテリー液から露出した場合、バッテリーの寿命が著しく低下したり損傷・爆発を生じます。

バッテリーに水をかけないこと

引火爆発の原因となります。

バッテリーを乾いた布で拭わないこと

引火爆発の原因となります。

スイッチが起動状態で充電を行うと制御系統が壊れます。

充電作業は換気の良い場所で行うこと

充電中はバッテリーからガスが発生し引火爆発を生じる恐れがあります。

バッテリーの形状に注意すること

バッテリーの寿命が近づいてくるとバッテリーケースが変形します。



使用時の警告



- 作業前に操舵に異常がないか確認すること
異常がある場合は運用を中止してください。
- 汚染された可能性のある場所を洗浄する場合は適切な防護具を身に着けること
汚染物質が飛散し人体に悪影響を生じる場合があります。
- 均一で適切な速度で旋回すること
転倒の危険性が有ります。
- 寒冷時は暖機運転を必ず行うこと
その際は駐車ブレーキを必ずかけてください。
- 道路の端に寄りすぎないこと
路肩が崩れる恐れが有る場所は走行しないでください。
草等が茂った路肩を清掃する場合は必ず降車し目視点検を行ってください。
- 輸送時の安全を確保すること
バッテリー端子を取外してください。
積載時の地上高に注意してください。
積載時は車両を6点支持固定してください。
前方側面2か所・後方側面2か所・後部2か所
冬季間の積載時は積載面の融雪を取り除いてください。
積載可能重量を確認してください。
車間距離を十分にとってください。
積載車のエンジンブレーキ・排気ブレーキを併用してください。
- 駐車は平坦な安定した場所に止めること
必ず駐車ブレーキを併用する。
- 燃焼（くすぶっている）しているゴミは回収しないこと
車両火災が発生する可能性があります。
- スプレー缶等のゴミは回収しないこと
車両火災が発生する可能性があります。
- 殺虫剤・農薬・肥料の回収には使用しないこと
車両が腐食する可能性があります。
- 高アルカリ性・酸性の溶液に反応する金属粉塵は回収しないこと
（アルミニウム、マグネシウム、亜鉛など）
爆発性のガスを生成し危険を伴います。
- 水と反応する粉じんは回収しないこと
火災が発生する危険が伴います。
- ガソリン・有機溶剤・灯油・重油が付着したごみを回収しないこと
火災が発生する危険が伴います。



作業に関する注意



音楽用イヤホン等を使用しないこと

始動時はアクセルレバーを低速位置に移動すること
油圧系統が損傷します。

不整地路面を走行する場合は注意すること
不意に傾き点灯の危険が高まります。

運転者以外の複数の人員を搭乗させないこと

作業車両で物を押したり・引いたりしないこと

斜面に対し直行しないこと
転倒の危険が高まります。

操作パネルに水をかけないこと
スイッチが損傷する原因となります。

高圧洗浄は行わないこと

起動中はエンジンを水洗いしないこと
エンジン故障の恐れがあります。

タイヤ、ラジエーターフィン、油圧ホースおよびバルブ、シール、電気および電子部品に対し高圧洗浄機で清掃しないこと

不適切な燃料（劣化）は使用しないこと
燃料システムの腐食や異常磨耗・低温時での燃料フィルタの目詰まり・エンジン始動性の低下・エンジン出力の低下を招きます。
継続使用した場合、エンジンを損傷します。

牽引作業を行わないこと
牽引を行う強度を要していません。

走行・作業において危険が伴う場所では使用しないこと

公道走行には適しません
公道走行におけるリスクは全て使用者が負います。

標高 1,200 m 以上では使用しないこと
エンジンに異常が生じます。

段差は乗り越えないこと
段差に適したスロープを用意し通過してください。
走行系統・ブラシユニットを損傷します。

屋外に保管しないこと
作動油圧系統の損傷を招きます。

荷卸しにクレーンを使用しないこと
車両が壊れます。

エンジン起動中はボンネットを開かないこと



作業に関する注意



- 作業者が作業に適した衣類を着用すること
サイズが合わない作業着は巻込みの危険性が高まります。
- ヘルメットを着用すること
- 滑り止めのついた靴（安全靴を推奨）を着用すること
- ジュエリー・指輪は取外すこと
レバー操作時に引っかかる場合があります。
- 取扱説明書に記載された手順に従うこと
重大な障害を生じる場合があります。
- 取扱説明書は取出し易い場所に保管すること
- 熟練訓練を行うこと
転舵装置が一般車両と異なります。
回転半径が小さく人・動物・物を挟み込まないように注意してください。
- 法規を遵守し運転を行うこと
安全規則、労働衛生規則、道路交通規則を遵守してください。
- 長時間作業を行う場合は定期的な休息をとること
- 車両の周りの安全確認を行うこと
車両付近に他の人や、動物、障害物がないかを確認してください。
- 後退する場合は、走行ペダルを慎重に踏み込むこと
アクセルペダルを一気に踏み込むと挙動が安定せず事故を誘因します。
- 操舵特性に注意すること
滑りやすい路面（雪上、氷上、濡れた、ぬかるむ路面）斜面で旋回操作を行う場合、急激なハンドル操作は行わないでください。
- 暖機運転を行うこと
作動油圧系統の損傷を招きます。
- エンジン起動中は作業車両から離れないこと
- エンジン起動時は走行ペダルから足を放すこと
- エンジン起動前にすべての操作レバーとスイッチを中立にしてください。
- スターターモーターを10秒以上動かさないこと
エンジンが起動しない場合は10秒待ち再度起動操作を行ってください。
- 燃料を切らさないこと
燃料ポンプに空気を吸い込み起動できなくなります。



作業に関する注意



上り坂 / 下り坂の斜面を横切る操舵は注意すること
転倒の危険性が有ります。

斜面を走行する場合は注意すること
転倒の危険が伴います。

傾斜地は低速で移動すること
ブレーキの利きが低下する場合があります。

高速走行時のハンドル操作に注意すること
転回する場合は速度を落としてください。

制動はブレーキを必ず使用すること
走行ペダルを離すと制動減速へ移行します。
(油圧モーター送油停止に伴う減速作用)
これは、一般車両(エンジンプレーキ)とは異なります。
停止の際はブレーキペダルの操作を必ず行ってください。

ブレーキ操作に注意すること
走行時と作業時のブレーキ特性は異なり利きが低下する場合があります。

ブレーキに不具合が生じた場合は使用を中止すること

後退する場合は後方を確認すること
人・物がないことを確認した後後退してください。

停止したまま同じ場所を清掃しないこと
路面が損傷する場合があります。

使用しない場合は起動キーを取外し保管すること
安全な場所に保管してください。

冬季は軽油の種別を3号もしくは特3号を使用すること
運用地域の気温に適した軽油を使用してください。
暖かい地域から寒冷地域へ車両を輸送する場合
タンク内の軽油を1/4以下に減らしたのち寒冷地域の給油所で速やかに給油を行
い5分間エンジンを作動させてください。
(燃料ラインの軽油凍結を防止します)

ひも状のゴミは事前に取り除くこと
ブラシに巻きつきブラシを痛めます。

車両の安全・安定性を確認しゴミを捨てること

スーパー作業終了後ダストコンテナのゴミを廃棄すること
廃棄後直ちにコンテナを格納してください。

作業車両に落下物が当たる危険性が有る場合
オーバーヘッドガードを取付けること
<注意>
オーバーヘッドガードは転覆保護装置ではありません。
オーバーヘッドガードが変形・損傷した場合は直ちに交換を行ってください。



作業に関する注意



純正部品を使用すること

純正部品以外を使用された場合、性能が維持できない場合が生じます。
純正以外の部品を装着し損傷した場合、一切の保証はなされません。

始業前点検を行うこと

車両運送法により規定されています。

自社メンテナンスを行う場合は選任者を指定すること

トレーニングを受講した選任者による整備を行ってください。

メンテナンスの際は停止状態で行うこと

エンジン冷却後に整備をおこなってください。

メンテナンスの際は防塵マスクを装着すること

ダストフィルターの交換・ブラシの交換は粉塵対策を行い作業を行ってください。

エンジンオイルは定期的に交換すること

初回 50 時間 事後 250 時間毎に交換してください。

エンジンエアフィルターは定期的に交換すること

1 初回 50 時間 6 回清掃毎もしくは毎 1 回短いスパンで交換を行ってください。

作動油は定期的に交換すること

500 作業時間毎もしくは 2 年毎に交換してください。

1 か月以上使用しない場合は車両をジャッキアップすること

タイヤの変形を抑制します。

1 か月以上使用しない場合は車両からバッテリーを取外すこと

バッテリーは使用しない状態で保管した場合、約 3 か月で完全放電します。
2 か月に一度、バッテリーの充電を行ってください。

バッテリー接続ケーブルは確実に取り付けること

ゆるみが生じている場合、バッテリーを損傷します。

バッテリー液の補充を行うこと

バッテリー液が少ない状態で使用した場合バッテリーが爆発する場合があります。
作業前に必ずバッテリー液の確認を行なってください。

凍結する環境下で使用する場合はクーラント濃度を確認すること

凍結によりエンジンが損傷します。

凍結する環境下で使用する場合は清水タンク系統の水を全て抜くこと

凍結により清水系統が損傷します。

定期点検契約を行いましょう。

統計的に定期点検を行事により運用効果が高まります。

故障発生後の費用は定期点検により事前対応提案の約 3 倍の修理費用がかかり、修復までの車両休眠時間は約 8 倍の時間を要します。

定期点検をご契約いただく事により

修理費用の抑制、無可動時間を抑制し、車両寿命が伸び、運用効率が格段に向上します。

燃料ホース・ゴムホース類は時間経過に伴い劣化します。

2 年毎の交換を推奨します。



燃料の基準

燃料を切らさないこと

燃料ポンプに空気を吸い込み起動できなくなります。

気温に適した軽油を使用すること

燃料のセダン値は 45 以上

ディーゼル燃料に、オイル、使用済みエンジンオイル、余った燃料を混ぜないこと

燃料内の水、沈殿物は、全体の堆積の 0.05% 未満であること

燃料タンク、燃料を取り扱う補器類の周りは常に清掃すること

品質の悪い燃料は私用しないこと

エンジン性能の低下・エンジン損傷の原因

燃料添加剤の使用禁止

エンジン性能の低下・エンジン損傷の原因

灰分は、全体の体積の 0.01% 未満であること

残留炭素分は、全体の体積の 0.35% 未満（推奨値：0.01%）であること

芳香族分は、全体の体積の 35% 未満（推奨値：30%）であること

PAH（多環芳香族炭化水素）は、全体の体積の 10% 未満であること

勤続含有量は 1mass ppm 以下であること（JIS-5S-44-95 試験分析法）

ナトリウム・マグネシウム・ケイ素・アルミニウム

潤滑性 -HFRR 試験 WS1-4 の磨耗傷が最大 460 μm までとする

バイオディーゼル燃料

【摘発油等の品質の確保に関する法律】で定める軽油規格を満足する B5 以下のバイオディーゼル燃料であること

バイオディーゼル燃料の購入は必ず正規のディーゼル燃油販売店で購入すること

緊急移動（エンジンが動かない）



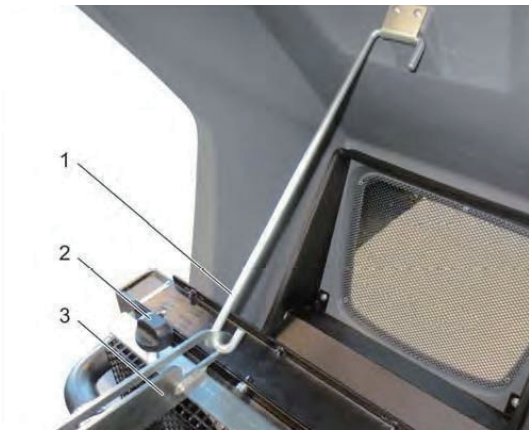
<人力で移動>
パーキングブレーキをかけてください。

- 1 ボンネット
- 2 クイックロック
- 3 サイドパネル
- 4 ロック



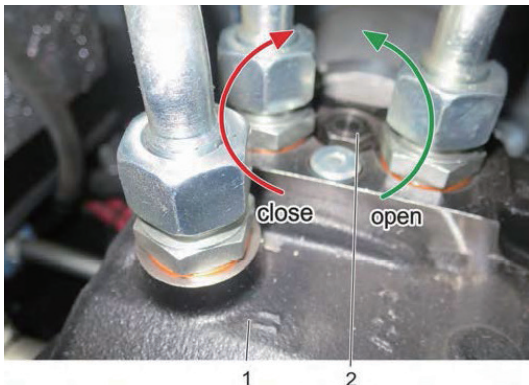
ロックを解除してください。
ボンネットを前方へ開けてください。

- 1 ロック
- 2 ボンネット



ガイドレール端部までロッドを移動し固定してください。

- 1 ロッド
- 2 ロッドロック
- 3 ガイドレール



3名で操作してください。
サイドパネルの固定スクリューを取外してください。
サイドパネルを開けてください。
油圧解除スクリューを半回転回してください。
ボンネットを閉じてください。
運転者はシートに座りハンドル・ブレーキ操作を行います。
車両の周りの安全を確認した後2名で押してください。
異動後、駐車ブレーキをかけてください。
油圧解除スクリューを閉めてください。

- 1 作動油ポンプ
- 2 油圧解除スクリュー

<注意>
平坦な場所のみで行ってください。
移動速度は、4Km/h以下で行ってください。
油圧解除スクリューが開いた状態でエンジンを起動しないでください。作動油ポンプが損傷します。

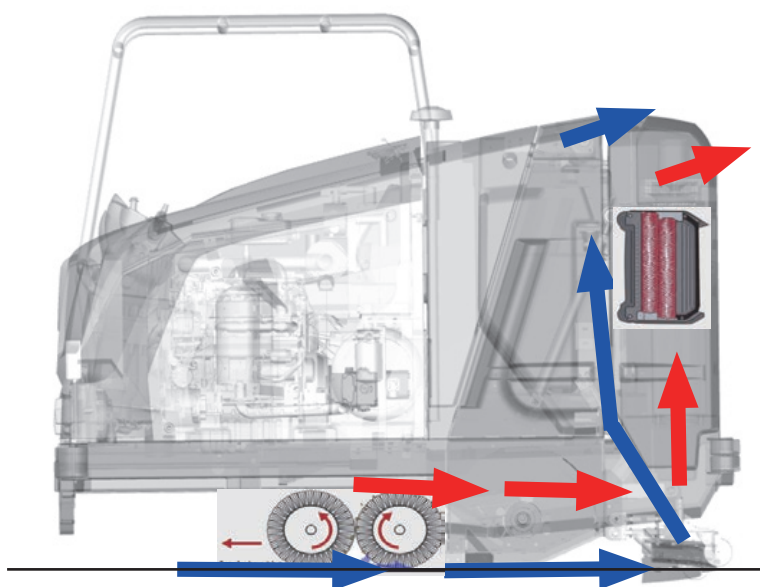
仕様

2.004-001.0 B 300 R I Diesel			
走行スピード	前進	Km/h	12
	後進		5
	作業		max 10.7
登坂能力	走行	%	16
	作業		14
清掃能力	メイン + サイド	m ² /h	16,550
清掃幅	メイン + ディスク	mm	1,350
	メイン + サイド	mm	1,655
	メイン + サイド 2	mm	1,755
汚水回収幅		mm	1,440
タンク容量	清水タンク	L	271
	吐出量	L/分	12
	汚水タンク	L	270
燃料タンク	容量	L	30
作動時間	タンク満油	h	約 5
エンジン			
製造会社		Kubota	
燃油		軽油	
型式		V1505-EF01	
気筒数		4 気筒	
冷却		水冷	
ボア × ストローク		mm	78.4 × 78.0
排気量		cm ³	1,498
回転方向		反時計回転	
オイル		L	6
回転数 max		rpm	2,300
出力		kW/HP	18.2/24.8
トルク	2400 - 2900 rpm	Nm	92.6
オイルフィルター		タイプ	カートリッジ
エアフィルター			カートリッジ
燃料フィルター			カートリッジ
電源			
バッテリー	電圧	V	12
	容量	Ah	80
発電機	電圧	V	12
	発電量	V-A	40
オイル			
エンジンオイル	25°C <	SAE	30 / 10W-30 / 15W-40
	0 ~ 25°C		20 / 10W-30
	< 0°C		10W / 10W-30
作動油	粘度	HV	Agip Rotra ATF
	容量	L	30 (全交換)

仕様

2.004-001.0 B 300 R I Diesel			
ダストコンテナ			
上昇高さ	mm		1,560
容量	L		180
タンク			
汚水タンク	L		300
清水タンク	L		300
メインブラシ			
幅	mm		1,045
直径	mm		300
回転数	rpm		222
毛足	mm		
サイドブラシ・ディスクブラシ			
サイドブラシ	直径	mm	600
	回転数	rpm	49
ディスクブラシ	直径	mm	410
	回転数	rpm	49
タイヤ			
前輪	サイズ	ハード	452mm
後輪			457mm
ブレーキ			
前輪	無し (油圧モーター)		
後輪	油圧ブレーキ		
駐車ブレーキ		機械式	
フィルター			
ダストコンテナ		筒型フィルター	
汚水タンク		平板フィルター	
フィルタークリーニング (ダストコンテナ)		振動	
吸引圧力	mbar		120
使用環境			
外気温度	°C		-5 ~ 40
湿度	%		0 ~ 90
騒音値 EN 60355-2-72	LpA	d B(A)	92
	KpA		2
	LWA		103
振動			
ハンドル	m/s ²		0.43
ボディー			0.94
フロアー			0.84
大きさ			
寸法 (mm) 長さ×幅×高さ		mm	2,400 × 1,540 × 1,760
回転半径		mm	3150
質量	乾燥重量	Kg	1,750
	総重量		2,310

回収プロセス



革新的なスクラブスーパ
1回の清掃工程で2種類の作業が行えます。

特に床面積が広い現場にフィットし人工・複数の機材保有・消耗品削減を同時に達成することが出来ます。

<回収プロセス>

2本のブラシは面圧調整が瞬時に行えます。強力な面圧により床面の清掃と洗浄が同時に行え時短が行えます。

メインブラシが前後逆回転駆動

→ 粉塵・ゴミ等
ブラシが路面のゴミ・粉塵を巻上げます。巻上げられたゴミ等はダストコンテナで回収されます。汚れた空気はフィルターにより除去され車外へ排気されます。

→ 汚水
ブラシが床面の汚れを除去します。洗浄後の汚水は後方へ移動します。移動した汚水はスクイージーにより汚水タンクへ回収されます。吸引空気はフィルターを通過し車外へ排気されます。

適合する床材

工業用フロア
コンクリート舗装
アスファルト舗装
敷石

機能

平坦な路面・床の湿式・乾式清掃に使用します。

<湿式清掃（スクラブ作業）>

洗浄方法を設定します。
ブラシユニットはゴミを中央へ集め、後部のブラシ（逆回転）で回収します。
洗浄後の汚水はスクイージーにより汚水タンクへ回収が行われます。

<乾式清掃（スーパ作業）>

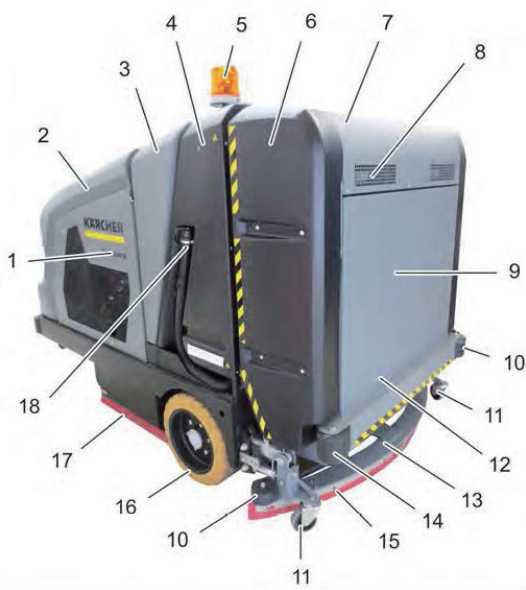
清掃方法を設定します。
ブラシユニットはゴミを中央へ集め、後部のブラシ（逆回転）で回収します。
回収された粉塵はフィルターで濾過された後は車外へ排気されます。

<フロントアタッチメント>

サイドブラシユニットからディスクブラシユニットへの改装
業務用製品コールセンターへ有償作業依頼を行ってください。プログラム変更が伴います。
サイドブラシユニット：乾式
スクラブブラシユニット：湿式（洗浄水を出しながら洗浄）



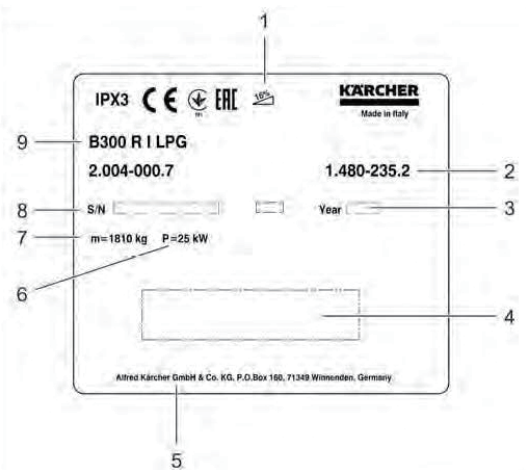
各部名称



- 1 左カバー
- 2 ボンネット
- 3 清水タンク 270 L
- 4 サイドカバー (電装)
- 5 回転灯
- 6 ダストコンテナ サイドカバー
- 7 タービンカバー
- 8 ダストコンテナ: 吸引タービン・フィルター
- 9 ダストフィルター
- 10 デフレクター
- 11 ローラー
- 12 ダストコンテナ
- 13 スクイジーノズル
- 14 ガイドローラー
- 15 スクイジー
- 16 後輪
- 17 サイドリップ
- 18 排水ホース (清水)



- 1 運転席
- 2 ハンドル
- 3 バックミラー
- 4 ヘッドライト
- 5 ガイドローラー
- 6 けん引アンカー取付部位
- 7 前輪 (駆動輪)
- 8 サイドブラシ
- 9 サイドブラシ 固定ピン
- 10 走行ペダル
- 11 サイドリップ
- 12 サイドパネル (バッテリー・燃料タンク)
- 13 後輪
- 14 汚水タンク 排水ホース
- 15 汚水タンク用: タービン・フィルター

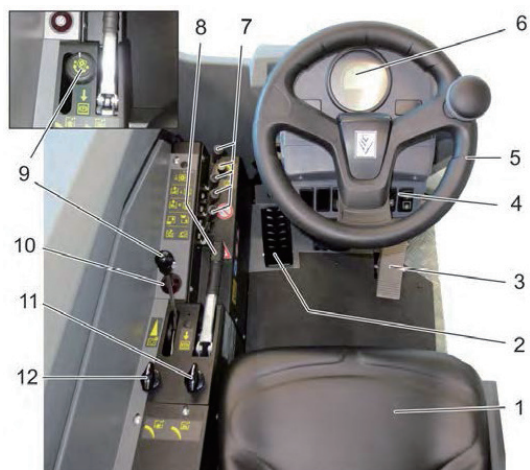


<銘板>

駐車ブレーキの下に添付されています。

- 1 登坂能力 16% (下降・上昇)
- 2 商品番号
- 3 製造年
- 4 管理バーコード (商品番号・製造番号を含む)
- 5 製造会社の住所
- 6 出力
- 7 車両重量
- 8 製造番号
- 9 車両名

各部名称



<操作パネル>

- 1 シート
- 2 ブレーキペダル
- 3 走行ペダル
- 4 スイッチパネル
- 5 ハンドル
- 6 マルチメーター
- 7 コントロールレバー
- 8 駐車ブレーキ
- 9 スロットルレバー
- 10 ディスプレイランプ (廃棄物コンテナフラップ)
- 11 ディスクブラシ 給水バルブ
- 12 メインブラシ 給水バルブ



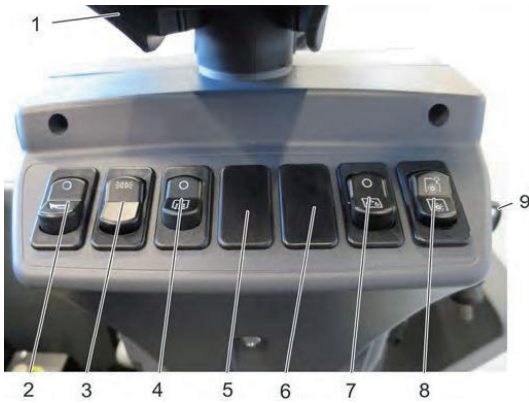
<マルチメーター>

キースイッチを入れた瞬間全てのランプが点灯します。

- 1 警告灯 燃料 min
- 2 ダストコンテナ 廃棄
- 3 ウィンカー 左
- 4 警告等 エンジン
- 5 警告等 エンジン温度
- 6 燃料残量計
- 7 タービン ランプ
- 8 グロー ランプ
- 9 警告灯 作動油 油圧
- 10 ポジションライト
- 11 ヘッドライト
- 12 警告灯 バッテリー
- 13 エンジン水温計
- 14 警告等 エンジン (発電器)
- 15 駐車ブレーキ
- 16 スーパーモード
- 17 ウィンカー 右
- 18 汚水タンク 満水
- 19 エンジン回転数表示
- 20 清水タンク 空
- 21 作動時間計
- 22 該当無し

警告灯 点灯	原因	対策
<4> エンジン	エンジンがオーバーヒート	エンジン速度をアイドル設定
		ラジエターを洗浄
		冷却液のレベル確認
<9> 作動油 油圧	作動油の温度が高い	警告灯が消えるまでアイドル運転
		オイルクーラーを洗浄
		作動油の量を確認
<12> バッテリー	充電されていない	発電器の異常
		ヒューズの確認

各部名称



<スイッチパネル>

- 1 ハンドル
- 2 ホーン
- 3 ヘッドライトスイッチ
- 4 フィルタークリーニング
- 5 未設定
- 6 未設定
- 7 散水スイッチ（散水ポンプ駆動）
- 8 清掃モード切替スイッチ（スーパースクレーパー⇄スクレーパー）
- 9 キースイッチ



<走行ペダル>

- 前進：ペダルの前方を徐々に踏み込んでください。
- 後進：ペダルの後方を徐々に踏み込んでください。

<注意>

- 急激に踏み込まないでください。
- 前進から後進へ移行する場合
完全停止後ペダル操作を行ってください。
前輪に組み込まれている油圧モーターが損傷します。



<コントロールレバー>

- 1 ブラシ面圧調整
- 2 ハンドルコラムレバー
- 3 ブラシ駆動レバー
- 4 サイドブラシ 昇降レバー
- 5 ダストコンテナ 昇降レバー
- 6 フラップ開閉レバー



1 ブラシの面圧調整

ブラシの面圧（路面への接触圧力）を調整することが出来ます。

接触圧力を上げる

ボリュームを時計回りに回してください。

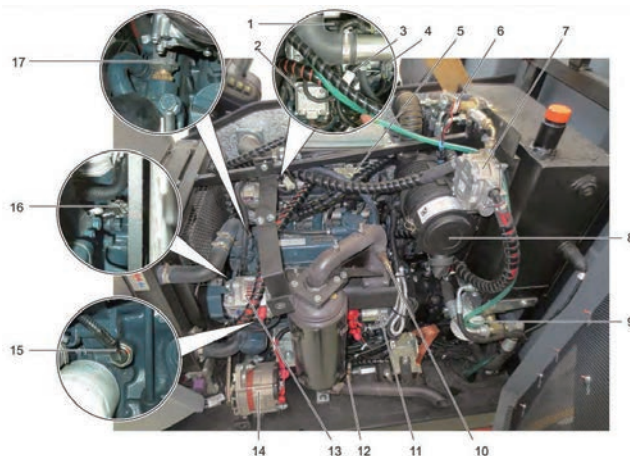
接触圧力を下げる

ボリュームを反時計回りに回してください。

<注意>

- 清掃面の汚れ具合に応じて調整を行ってください。
- 面圧を高くした場合、ブラシの消耗が早まります。
- ボリュームを無理に回さないでください。

各部名称



- 1 スロットルバルブ
- 2 圧力調整器
- 3 制御ユニット ⇒ シート下に移動
- 4 温度センサー・圧力センサー
- 5 ヒューズボックス
- 6 該当なし
- 7 該当なし
- 8 エア・フィルター
- 9 作動油 フィルター
- 10 触媒 プロープ
- 11 スターター
- 12 触媒 プロープ
- 13 発電器
- 14 発電器 (タービン駆動用)
- 15 油圧センサー
- 16 カムシャフトセンサー
- 17 温度センサー



- 1 スロットルバルブ
- 2 ノックセンサー
- 3 エンジンユニット
- 4 クランクシャフトセンサー



- 1 キャップ
- 2 リザーブタンク 冷却水

<注意>

クーラント以外を補充しないこと

水を補充した場合エンジン内部が錆びラジエターの冷却効率が低下しオーバーヒートを招きます。

環境に適した濃度に調整してください。

Max 以上にクーラントを補充しないでください。

必ずキャップを閉めてください。

クーラントはパーマナントタイプ (PT) を使用してください。(エチレングリコール系)

作業前の準備



<シート>

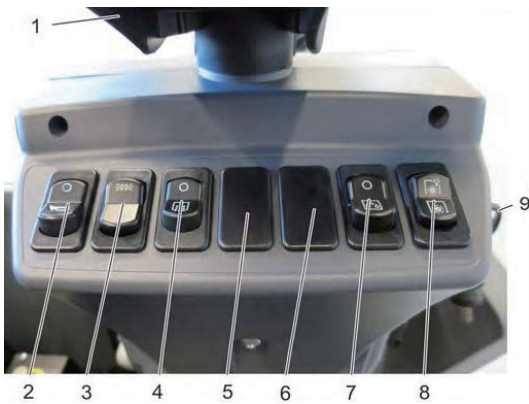
- 1 シートアジャスター
- 2 シートベース
- 3 背もたれ調整
- 4 クッション調整

エンジン起動前に操舵・ブレーキ・走行ペダル等の操作がスムーズに行える位置に合わせてください。

運転中にシート調整はおやめください。

運転席から乗員が離れた場合、強制停止します。

再起動はキースイッチを一度切り再度 ON にしてください。
グローは不要です。



<スイッチパネル>

- 1 ハンドル
- 2 ホーン
- 3 ヘッドライトスイッチ
- 4 フィルタークリーニング
- 5 未設定
- 6 未設定
- 7 散水スイッチ（散水ポンプ駆動）
- 8 清掃モード切替スイッチ（スイーパー⇄スクラパー）
- 9 キースイッチ



<ハンドル>

- 1 ハンドル
- 2 ハンドルコラムレバー

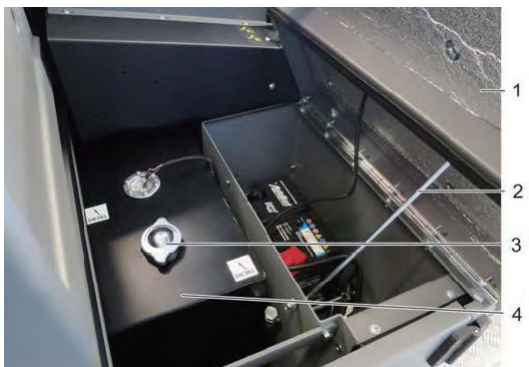
ハンドルレバーを緩めてください。

シートに確り腰かけてください。

ハンドルがスムーズに操作できる角度にハンドルの傾きを調整してください。

ハンドルレバーを固定してください。

運転中にハンドル調整はおやめください。



<燃料の補給>

- 1 シートベース
- 2 ロッド
- 3 燃料キャップ
- 4 燃料タンク

スタンドで給油する場合

燃料は軽油です。

エンジンを停止してください。

シートベースを持ち上げ、ロッドで固定してください。

燃料キャップを開けてください。

給油ノズルを可能な限り充填ノズルに挿入します。

給油ノズルが自動的にオフになったら満油です。

こぼれた燃料を拭き取り、燃料キャップを閉めてください。

<注意>

換気の良い場所で燃料（軽油）を補給する。

燃料を入れ過ぎないでください。

火の気のある場所で燃料を補給しない。

エンジン・マフラー等の高温部位に燃料がこぼさない。

作業前の準備



<清水タンクへ真水を補給>

- 1 清水タンク
- 2 キャップ
- 3 水位レベル

清水タンクのキャップを開きます。
清水タンクに真水を保水してください
最高 50°C までの真水
洗剤を追加します。
投与量の注意事項を守ってください。
清水タンクのキャップを閉じてください。

<注意>

純正洗剤以外を使用される場合は無発泡性洗剤を使用してください。
安全データシートを入手し弊害が出ない事をお客様で確認してください。
発泡性洗剤は使用しないでください。
汚水タンクが泡でオーバーフローを起こします。



<エンジンの始動>

- 1 ブラシ : 駆動 / 停止
- 2 サイドブラシ : 昇降
- 3 タービン : オン / オフ
- 4 フィルタークリーニング : オン / オフ
- 5 スロットルレバー : エンジン回転
- 6 駐車ブレーキ
 - A ブラシの面圧調整

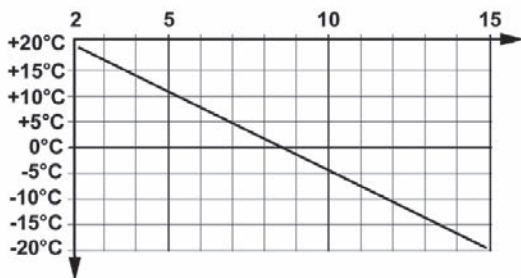
駐車ブレーキをかけてください。
シート位置を合わせてください。
ハンドルコラムの角度を合わせてください。
スロットルレバーを 1/3 の位置に合わせてください。

キースイッチをグロー位置まで回し保持してください。
グローランプが消灯後、キースイッチを更に回しスターターモーターが起動します。
起動後、キースイッチから手を放してください。

暖機運転を行ってください。
暖機運転後、駐車ブレーキを解除してください。
エンジン回転数を最大にしてください。

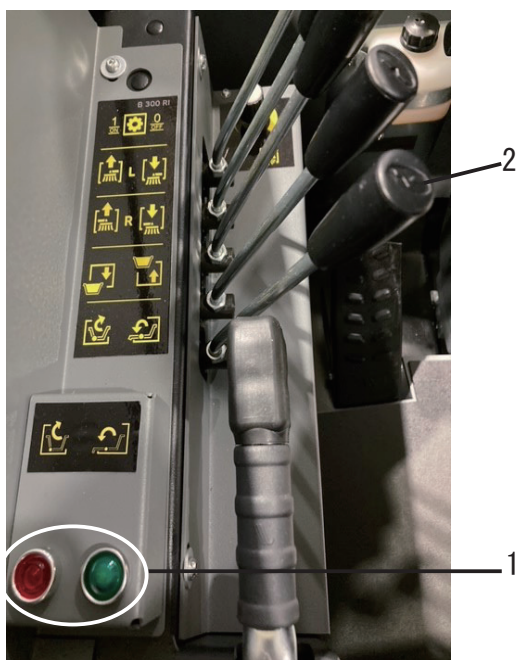
<暖機運転の目安>

エンジン始動後、必ず暖機運転を行ってください。
作動油温度が適正值まで上がらない状態で作業を行うと作動油系統に負担がかかり損傷が生じます。



外気温度	暖機運転時間
20°C	約 2分
10°C	約 5分
0°C	約 8分
-10°C	約 11分
-20°C	約 15分

作業前の準備



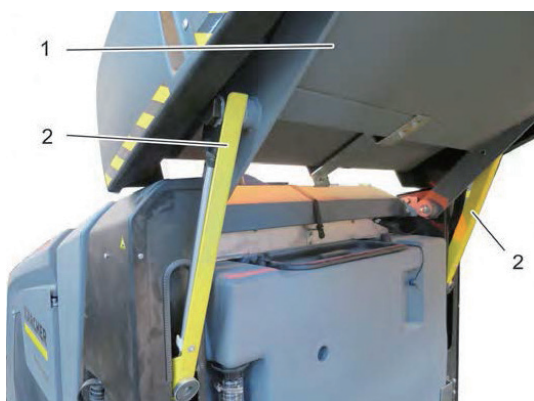
<コンテナ 基本操作>

- 1 フラップ 格納ランプ (廃棄物コンテナフラップ)
- 2 フラップ開閉レバー

フラップ開閉レバーを操作してください。
フラップが格納されると赤いランプが点灯します。
点灯時のみコンテナの昇降操作が行えます。
コンテナを所定の高さまで上昇してください。
フラップ開閉レバーを操作し、フラップを開けてください。
緑のランプが点灯します。
コンテナのゴミを廃棄してください。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを格納してください。
赤いランプが点灯します。
コンテナを格納してください。

注意

定期的コンテナの回収ゴミを廃棄してください。

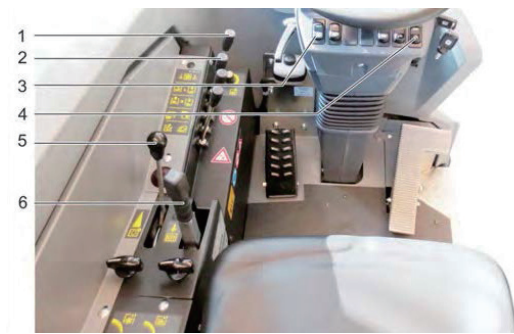


<安全バー>

コンテナを上げた状態でメンテナンスを行う場合は必ず安全バーを使用してください。

- 1 ダストコンテナ
- 2 安全バー

清掃手順 スーパーモード（乾式）



<スーパーモード>

ダストコンテナのフラップを開きます。

- 1 ブラシ : 駆動/停止
 - 2 サイドブラシ : 昇降
 - 3 タービン : オン/オフ
 - 4 フィルタークリーニング : オン/オフ
 - 5 スロットルレバー : エンジン回転
 - 6 駐車ブレーキ
- A ブラシの面圧調整

作業前にダストコンテナのゴミを廃棄してください。
走行スピードは路面の汚れ具合に応じ調整してください。

エンジンを起動してください。
エンジン回転を 1/3 に設定後、暖機運転を行ってください。
エンジン回転数を最大にしてください。
駐車ブレーキを解除してください。
清掃場所まで移動してください。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを開いてください。
ランプが消えます。
散水スイッチは OFF にしてください。
ブラシレバーを操作しブラシを下げてください。
サイドブラシレバーを操作しサイドブラシを下げてください。
清掃モード切替スイッチ（スーパー⇄スクラバー）をスーパー側に押してください。
清掃作業を開始してください。

<フィルタークリーニング>

フィルタークリーニングスイッチは押している時のみ作動します。
1日に数回フィルターのクリーニングを行ってください。

清掃モード切替スイッチを中立にしてください。
フィルタークリーニングスイッチを5秒間押し放してください。
操作を4～5回繰り返してください。
フィルタークリーニングスイッチを5秒間押し放しを数回繰り返してください。

<注意>

路面に貯まった大量の水を回収しないでください。
フィルターは毎日清掃してください。
粉塵が大量に飛散した現場ではフィルタークリーニングを定期的に行ってください。
フィルタークリーニングスイッチを押し続けたり、固定したりしないでください。
フィルタークリーニングを行う際は必ず清掃モード切替スイッチを中立にしてください。

廃棄手順 スーパーモード（乾式）

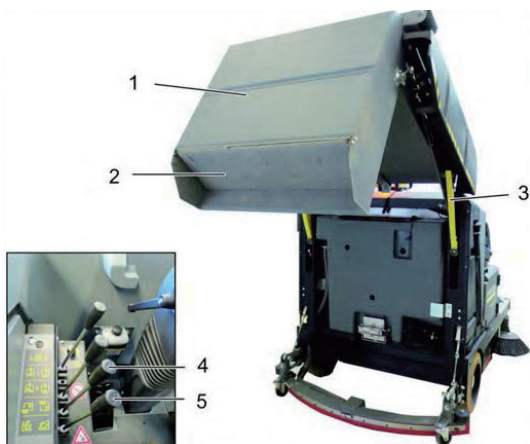


<コンテナ ゴミの廃棄>

コンテナを任意の高さまで持ち上げゴミを廃棄することができます。

- 1 フラップ 格納ランプ（廃棄物コンテナフラップ）
- 2 フラップ開閉レバー

フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉めてください。
フラップが格納されると赤いランプが点灯します。
点灯時のみコンテナの昇降操作が行えます。



- 1 ダストコンテナ
- 2 フラップ
- 3 安全バー
- 4 ダストコンテナ 昇降レバー
- 5 フラップ 開閉レバー

作業車両を廃棄場所まで移動してください。
周りの安全を確認してください。

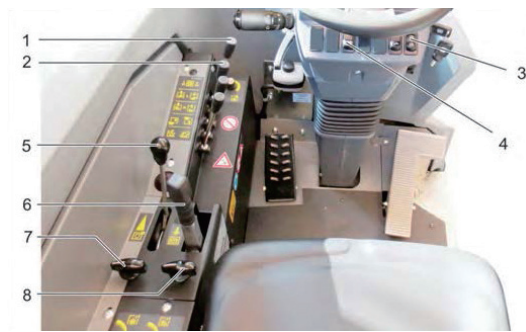
ダストコンテナ昇降レバーを操作しコンテナを所定の高さまで持ち上げてください。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉じてください。
赤いランプが点灯します。
コンテナ昇降レバーを操作し任意の高さまでダストコンテナを上昇してください。
産廃コンテナ等へ廃棄する場合は廃棄コンテナの高さまで持ち上げた後、車両を後退してください。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを開けてください。
緑のランプが点灯します。
ダストコンテナ内のゴミが廃棄されます。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉じてください。
赤いランプが点灯するまでレバーを保持してください。
コンテナ昇降レバーを操作しダストコンテナを車体に格納してください。

<注意>

コンテナ昇降作業時は周りの安全を確認してください。
ダストコンテナ廃棄作業中はシートから立ち上がらないでください。
シートから立ち上がると車両は緊急停止します。
運転席に着座した状態で行ってください。
コンテナを上げた状態でメンテナンスを行う場合は必ず安全バーを使用してください。
定期的にコンテナの回収ゴミを廃棄してください。



清掃手順 スクラブ モード（湿式）



<ウエットクリーニングモード>
2種類の清掃方法があります。

- ベーシッククリーニング
：路面の汚れが著しい清掃作業
- メンテナンスクリーニング
：日常清掃作業

- 1 ブラシレバー：駆動/停止
 - 2 サイドブラシレバー：昇降
 - 3 清掃モード切替スイッチ（スーパ⇄スクラバー）
 - 4 散水スイッチ：ポンプ可動
 - 5 スロットルレバー：エンジン回転
 - 6 駐車ブレーキ
 - 7 ディスクブラシ 散水バルブ
 - 8 メインブラシ 散水バルブ
- A ブラシの面圧調整

エンジンを起動してください。
エンジン回転を 1/3 に設定後、暖機運転を行ってください。
エンジン回転数を最大にしてください。
駐車ブレーキを解除してください。
清掃場所まで移動してください。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉じてください。
散水スイッチを ON にしてください。
ブラシレバーを操作しブラシを下げてください。
サイドブラシレバーを操作しサイドブラシを下げてください。
ブラシ散水量を調整してください。
清掃モード切替スイッチ（スーパ⇄スクラバー）をスクラバー側に押してください。ノズルが降下します。
清掃作業を開始してください。

場合によってはフラップを下げ路面のゴミをダストコンテナに回収することも出来ます。

排水手順 スクラブ モード（湿式）



<汚水の廃棄>

汚水タンクが満水になると吸引が停止します。
直ちに指定された場所で排水を行ってください。

- 1 キャップ
- 2 ブラケット
- 3 取っ手
- 4 排水ホース
- 5ホルダー

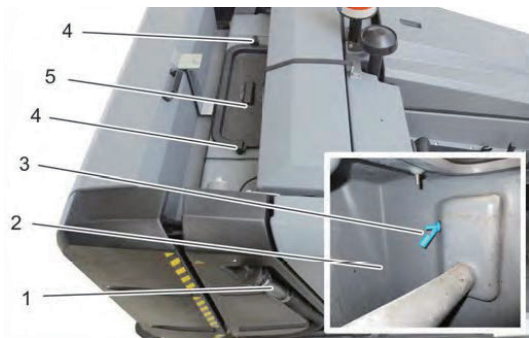
汚水タンクの排水ホースは右側にあります。
ホルダーから排水ホースを取り外してください。
排水ホース先端のキャップを外してください。
取っ手部位を握り潰すことにより排水量を調整することができます。
排水後キャップを閉めてください。
排水ホースを基の状態に戻してください。

<汚水を排水し作業を継続する場合>

清水タンクへ真水を補給してください。

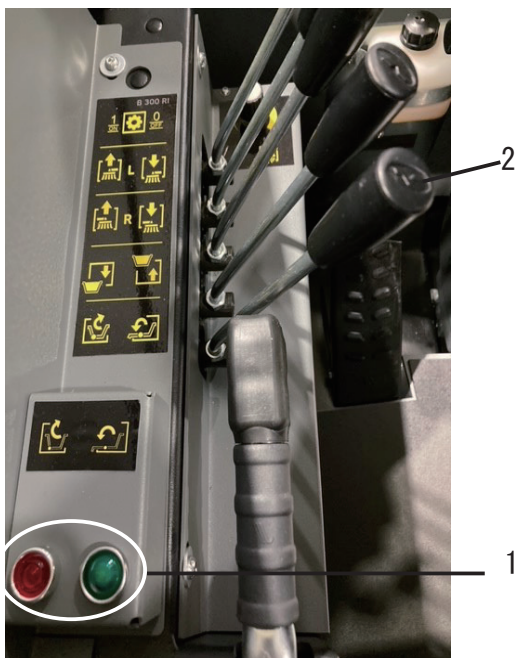
<汚水タンクの洗浄>

スクラブ作業が終了した場合は汚水タンクの洗浄を必ず行ってください。



- 1 排水ホース
- 2 汚水タンク内部
- 3 レベルセンサー（汚水タンク内にあります）
作動するとタービンが停止します。
- 4 ロック
- 5 タンクカバー

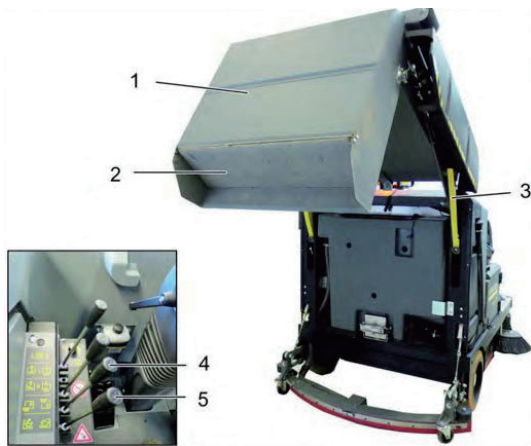
作業車両を排水場所まで移動してください。
周りの安全を確認してください。
汚水タンク内の汚水を排水してください。
汚水を排水してください。
タンクカバーのロックを解除してください。
タンクカバーを取外してください。



- 1 フラップ 格納ランプ（廃棄物コンテナフラップ）
- 2 フラップ開閉レバー

フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉めてください。
フラップが格納されると赤いランプが点灯します。
点灯時のみコンテナの昇降操作が行えます。

排水手順 スクラブ モード（湿式）



- 1 ダストコンテナ
- 2 フラップ
- 3 安全バー
- 4 ダストコンテナ 昇降レバー
- 5 フラップ 開閉レバー

ダストコンテナ昇降レバーを操作しコンテナを所定の高さまで持ち上げてください。
フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉じてください。
赤いランプが点灯します。
コンテナ昇降レバーを操作し最上位置までダストコンテナを上昇してください。
安全バーを取付けてください。



- 1 安全バー
- 2 汚水タンク
- 3 排水ホース
- 4 マンホール

汚水タンク下部のマンホールを開けてください。

廃棄後はタンク内部を洗浄してください。
汚水タンク内部のレベルセンサーがスムーズに動く事を確認してください。

スクラブモードでフラップを下げダストコンテナへゴミの回収を行った場合はダストコンテナ内のゴミを廃棄してください。
基の状態に全て戻してください。

牽引・車載固定



＜車両を牽引移動＞
2名で操作してください。
油圧解除スクリューを操作し緩めてください。

運転席に座り、操舵・ブレーキ操作を行ってください。
誘導員は周りの安全を確認してください。
異動後、油圧解除スクリューを閉めてください。

1 牽引フック

＜注意＞
平坦な場所のみで行ってください。
移動速度は、4Km/h以下で行ってください。



＜車両固定＞
輸送中の車両のずれ防止を必ず行わなければいけません。

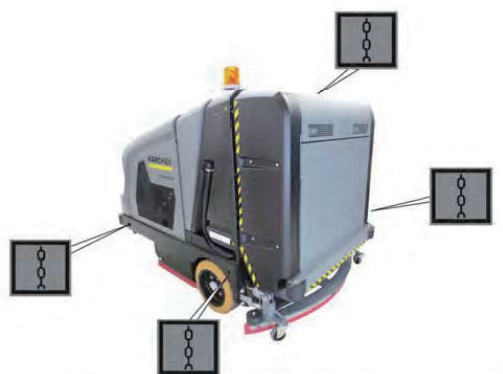
車両のキースイッチを抜いてください。

- 1 サイドブラシ・ディスクブラシ
- 2 固定シャフト

サイドブラシ・ディスクブラシの固定を行ってください
固定シャフトを床パネルの穴に刺し込んでください。
サイドブラシを内側に押し込みながら固定ボルトを奥まで差し込んでください。
サイドブラシを車両幅員内に固定することが出来ます。



スクイジー固定治具を取付けてください。
取付け箇所は左右1箇所ずつあります。
スクイジー破損の原因になりますので、必ず治具を取付けてください。



積載車両へ積み込んでください。
車両の中心位置へ停車してください。

車止めを装着してください。
図の位置で機械を固定してください。

＜注意＞
クレーン等で吊上げる事はできません。

メンテナンス

<車両の保管>

駐車場所の床耐圧を考慮してください。
乾燥した平坦な場所に保管してください。
車両をブルーシート等で覆い粉塵塔の飛散対策を行ってください。

ブラシを格納し、毛足が損傷しないよう留意してください。
清水タンク・汚水タンク・ダストコンテナ内の清水・汚水・ゴミを廃棄し清掃してください。
凍結する環境の場合
清水タンクの給水ラインの水を全て抜いてください。
抜く事が出来ない場合は ウォッシャー液等（凍結温度に適した濃度）を空の清水タンクに投入しブラシ散水部からウォッシャー液等が出てくるまで動かしてください。

キースイッチを抜き保管してください。
駐車ブレーキを掛けてください。
長期間使用しない場合はバッテリーの配線をバッテリー端子から外してください。
エンジンオイルを交換してください。
作動油の交換を推奨いたします。



<バッテリーの取り外し>

バッテリーは接続状態で放置した場合自己放電が生じやすく再始動時に使用でき無くなります。
保管する場合はバッテリー端子の取外しを推奨いたします。

- 1 サポート
- 2 山形ブラケット
- 3 バッテリー
- 4 シートスイッチ
- 5 カバー（シート一体）

シートベースを上を持ち上げサポートで固定してください。
バッテリーのマイナス端子を取外してください。
バッテリーのプラス端子を取外してください
バッテリーホルダーを取外してください。
バッテリーを取り出してください。



<バッテリーの充電>

バッテリーの充電は換気の良い場所で行ってください。
バッテリー液の温度が 55℃以上の場合には充電は行わないでください。

バッテリー液の補充を行ってください。
セルのキャップを全て外してください。
バッテリー液が少ない場合は蒸留水を補充してください。
汎用充電器を用い充電を行います。
汎用充電器の取扱説明書に従い充電作業を行ってください。
(例)
充電機のマイナス接続端子をバッテリーマイナス端子に取付けてください。
充電機のプラス接続端子をバッテリープラス端子に取付けてください。
充電器のスイッチを入れてください。
満充電後、充電器のスイッチを切り取外してください。
セルのキャップを閉めてください。

<寿命の低下>

急速充電は行わないでください。
短時間の一時的な補充電は行わないでください。
バッテリーを重放電させないでください。(80%放電)
長期間使用しない場合は2か月に一度充電を行ってください。

メンテナンス



<ボンネットの開け方>

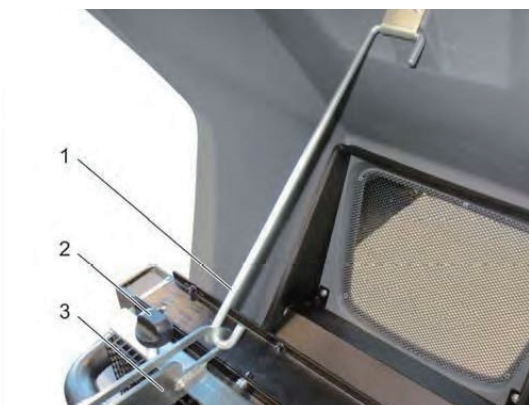
- 1 コンテナ サイドパネル
- 2 清掃タンク サイドパネル
- 3 ボンネット

ロックを解除してください。
ボンネットを前方へ開けてください。

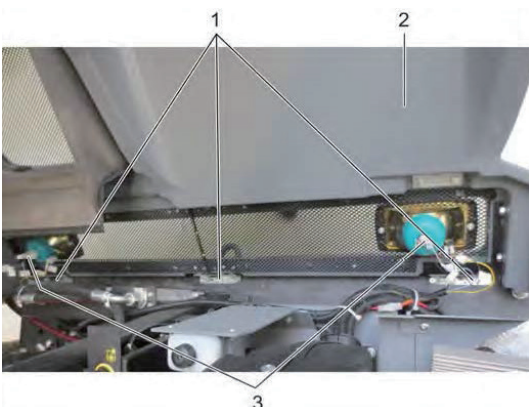


- 1 ロック
- 2 ボンネット

ガイドレール端部までロッドを移動し固定してください。



- 1 ロッド
- 2 ロッドロック
- 3 ガイドレール



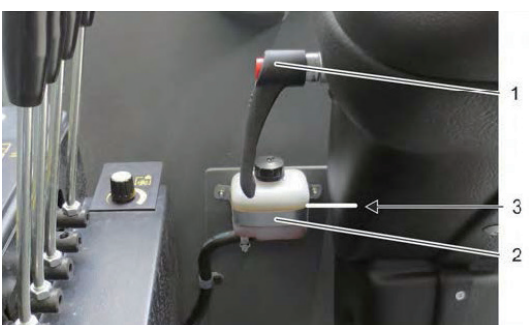
<ヘッドライトの確認>

- 1 スクリュー
- 2 ボンネット
- 3 接続プラグ

ヘッドライトの接続プラグを分離してください。
蝶番固定スクリューを取外してください。
ボンネットをクレーン吊上げ取り外してください。

<注意>

複数で安全を担保し作業を行ってください。



<ブレーキオイルの確認>

- 1 ハンドルコラムレバー
- 2 ブレーキオイルリザーブタンク
- 3 オイルレベル

ブレーキオイルリザーブタンクのオイルの量を確認してください。

メンテナンス



<清水タンク>

- 1 清水タンク
- 2 ポンプ
- 3 フィルター



<清水タンクの排水>

清水タンクの排水ホースは右側にあります。

- 1 キャップ
- 2 ブラケット
- 3 取っ手
- 4 ブラケット
- 5 排水ホース

ホルダーから排水ホースを取り外してください。

排水ホース先端のキャップを外してください。

取っ手部位を握り潰すことにより排水量を調整することができます。

排水後キャップを閉めてください。

排水ホースを基の状態に戻してください。



<給水>

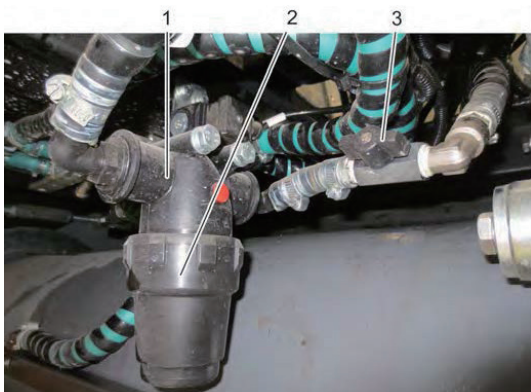
- 1 清水タンク
- 2 給水口
- 3 水位レベル

給水口から真水を補給してください。

水位レベルを確認してください。

<注意>

長期間使用しない場合は清水タンクの水を全て排水してください。



<清水フィルター>

- 1 フィルター ASSY
- 2 フィルターケース
- 3 バルブ

定期的にフィルターの清掃を行ってください。

バルブを閉めてください。

フィルターカバーを外してください。

フィルターカートリッジを外してください。

フィルターカートリッジの清掃・交換を行ってください。

メンテナンス終了後フィルターをもとの状態に戻してください。

バルブを開けてください。

<注意>

フィルターカートリッジの上下のシールを無くさないでください。

メンテナンス



<ダストコンテナ・フィルター 6. 680-374. 0 >

- 1 カバー
- 2 ハンドル
- 3 スクリュー

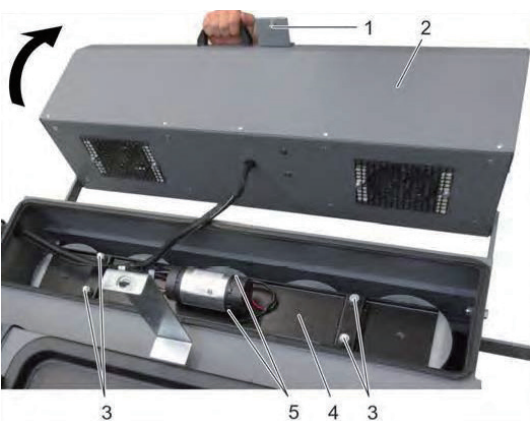
清掃作業中、定期的にフィルタークリーニングスイッチを操作し粉塵の除去を行ってください。

ファイラーを時々取り外し清掃してください。

推奨交換時期 1500 時間ごと

<警告> 防塵マスク・防塵メガネを身に付けてください。

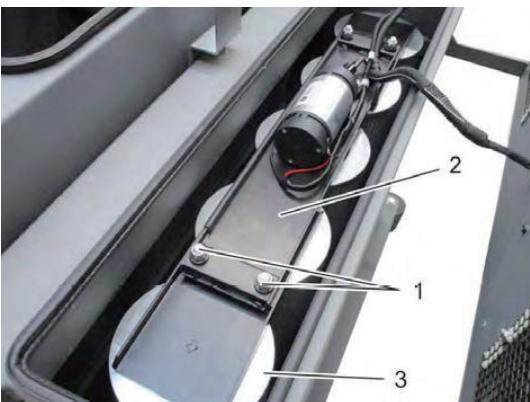
<注意> フィルターを硬い物で擦らないでください。



- 1 スクリュー
- 2 カバー
- 3 ナット
- 4 ベースフレーム
- 5 接続コネクタ X232

固定スクリューを取外してください。

カバーを後方に傾けてください。



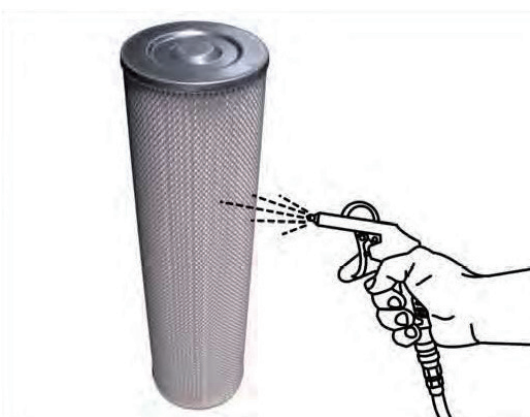
- 1 ナット (4x)
- 2 振動プレート
- 3 フィルターカートリッジ (5x)

6. 680-374. 0

ナット (4 個) を取外します。

振動プレートを取り外してください。

フィルターを取り外してください。



<フィルターのエアブロー>

フィルターをコンプレッサーで洗浄を行います。

圧搾空気は 外部から内部に向け吹きかけてください。

<ダストコンテナ 流水洗浄>

流水洗浄は数回しか実行できません。

流水洗浄は最終手段です。

流水洗浄方法

外側から内側に流水で洗い流してください。

柔らかいブラシを使用することも出来ます。

再使用するさいは完全乾燥してください。

メンテナンス

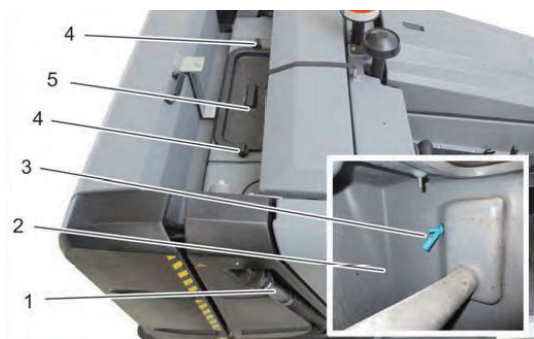


<汚水タンク・廃棄>

汚水タンクが満水になると吸引が停止します。直ちに指定された場所で排水を行ってください。

- 1 キャップ
- 2 ブラケット
- 3 取っ手
- 4 排水ホース
- 5ホルダー

汚水タンクの排水ホースは右側にあります。ホルダーから排水ホースを取り外してください。排水ホース先端のキャップを外してください。取っ手部位を握り潰すことにより排水量を調整することが出来ます。排水後キャップを閉めてください。排水ホースを基の状態に戻してください。

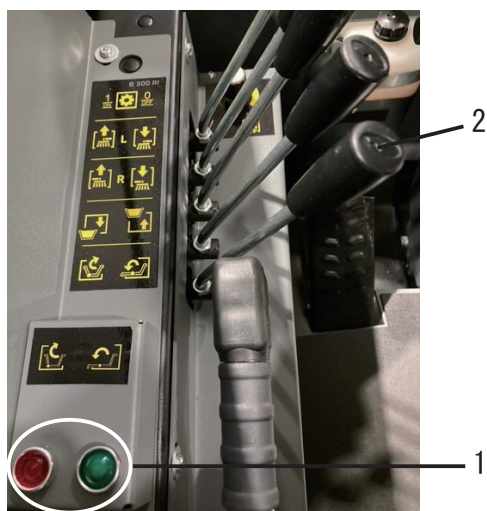


<汚水タンク・洗浄>

スクラブ作業が終了した場合は汚水タンクの洗浄を必ず行ってください。

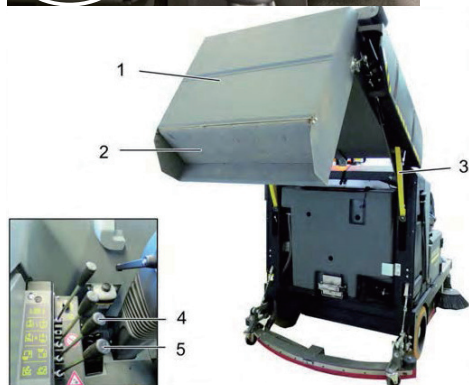
- 1 排水ホース
- 2 汚水タンク内部
- 3 レベルセンサー（汚水タンク内にあります）
作動するとタービンが停止します。
- 4 ロック
- 5 タンクカバー

作業車両を排水場所まで移動してください。周りの安全を確認してください。汚水タンク内の汚水を排水してください。汚水を排水してください。タンクカバーのロックを解除してください。タンクカバーを取外してください。



- 1 フラップ 格納ランプ（廃棄物コンテナフラップ）
- 2 フラップ開閉レバー

フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉めてください。フラップが格納されると赤いランプが点灯します。点灯時のみコンテナの昇降操作が行えます。



- 1 ダストコンテナ
- 2 フラップ
- 3 安全バー
- 4 ダストコンテナ 昇降レバー
- 5 フラップ 開閉レバー

ダストコンテナ昇降レバーを操作しコンテナを所定の高さまで持ち上げてください。フラップ開閉レバーを操作しフラップを閉じてください。インジケータランプが点灯します。コンテナ昇降レバーを操作し最上位置までダストコンテナを上昇してください。安全バーを取付けてください。

メンテナンス

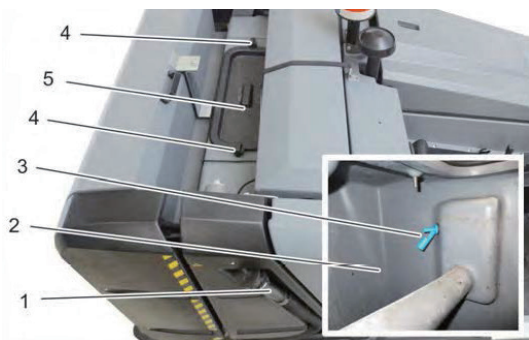


- 1 安全バー
- 2 汚水タンク
- 3 排水ホース
- 4 マンホール

汚水タンク下部のマンホールを開けてください。

廃棄後はタンク内部を洗浄してください。
汚水タンク内部のレベルセンサーがスムーズに動く事を確認してください。

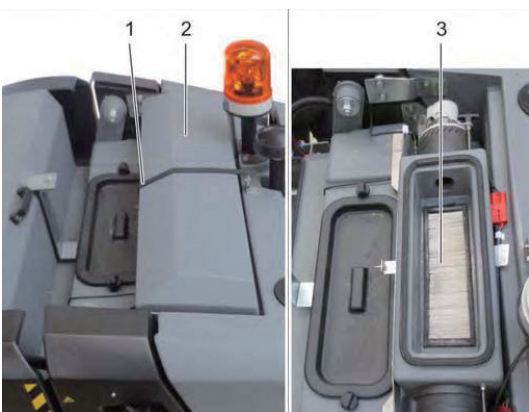
スクラブモードでフラップを下げダストコンテナへゴミの回収を行った場合はダストコンテナ内のゴミを廃棄してください。
基の状態に全て戻してください。



<汚水タンク・フィルター>

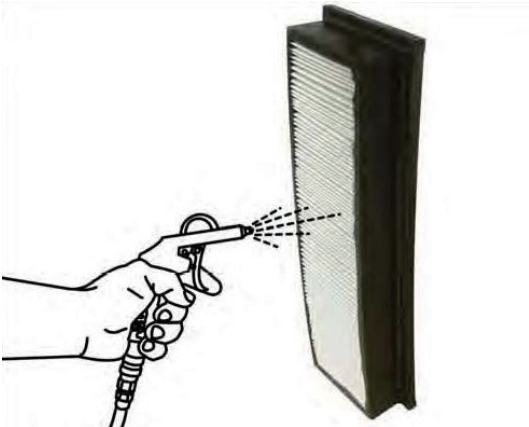
- 1 排水ホース
- 2 汚水タンク
- 3 レベルセンサー
- 4 ロック
- 5 カバー

レベルセンサーが作動すると吸引が停止します。
直ちに作業を中止し排水場所まで移動し汚水タンクの排水を行ってください。



- 1 ストラップ
- 2 カバー
- 3 フラットフィルター

ストラップを固定しているスクリューもしくはナットを取外してください。
カバーを取外してください。



<フィルターのエアブロー>

フィルターをコンプレッサーで洗浄を行います。
圧搾空気は 外部から内部に向け吹きかけてください。

<ダストコンテナ 流水洗浄>

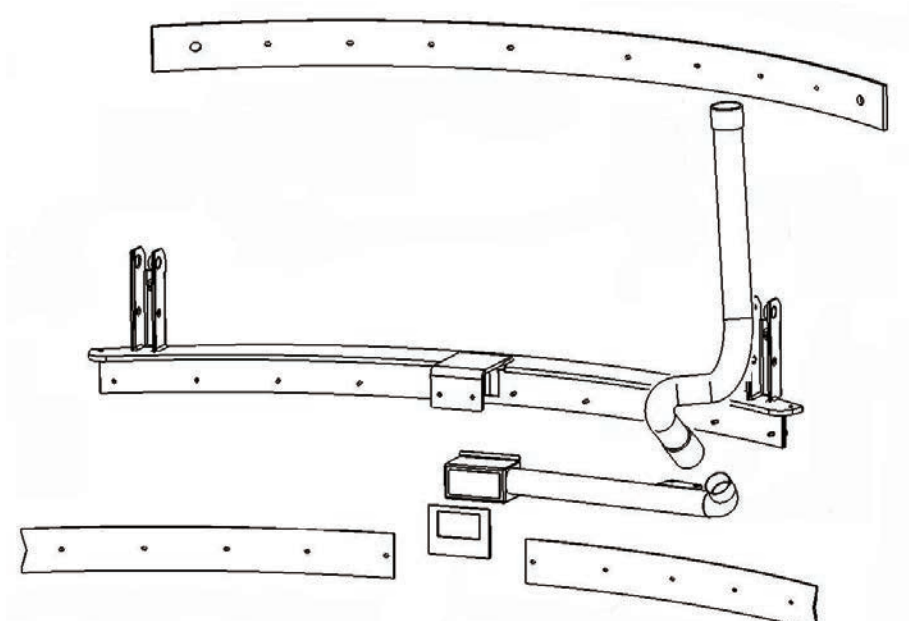
流水洗浄は数回しか実行できません。
流水洗浄は最終手段です。

流水洗浄方法

外側から内側に流水で洗い流してください。
柔らかいブラシを使用することも出来ます。

再使用するさいは完全乾燥してください。

メンテナンス



<スクイジー>

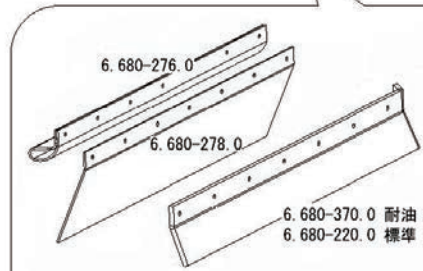
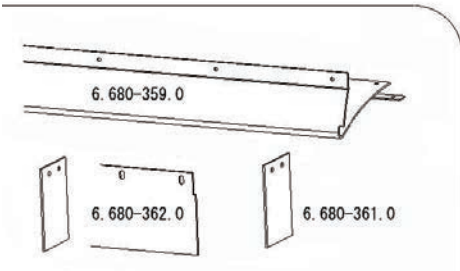
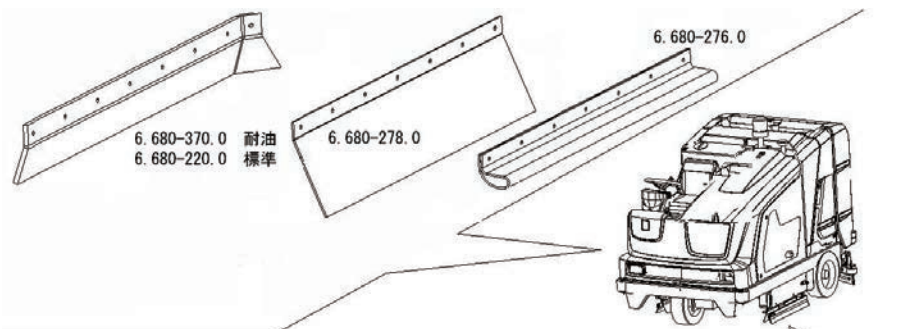
- 1 スクイジー
標準 : 6.680-372.0
耐油 : 6.680-373.0
- 2 吸引ホース
アダプター : 6.680-589.0
吸引ホース : 6.680-519.0
- 3 サイドリップ

スクイジーと吸引ホースを清掃してください。
サイドリップを清掃してください。
損傷・硬化している場合は直ちに交換を行ってください。

<注意>

スクイジー接地状態が悪い場合
汚水の取り残しが生じます。均一に設置するよう両端のターンバックルを調整してください。

メンテナンス



<サイドリップ>

- 1 ロック
- 2 サイドカバー
- 3 クイックロック
- 4 サイドリップ 6.680-370.0
- 5 ガイドプレート



サイドリップが損傷している場合

埃が飛散したり、汚水の回収に不具合が生じます。
損傷、硬化が生じている場合は直ちに交換を行ってください。

サイドリップ

- 外 標準 : 6.680-220.0
- 外 耐油 : 6.680-370.0
- 内 : 6.680-278.0 + 6.680-276.0

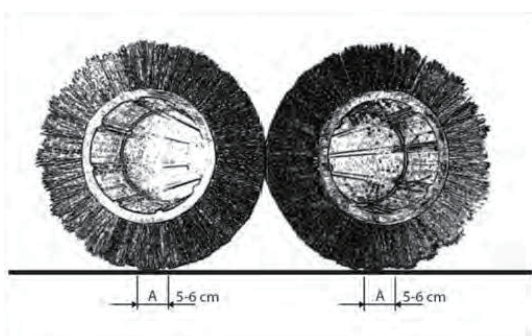
外側サイドリップ

クイックロックを解除してください。
ガイドプレートを取外してください。
サイドリップを取外してください。
新しいサイドリップと交換を行ってください。

内側サイドリップ

固定スクリューを取外してください。
ガイドプレートを取外してください。
サイドリップを取外してください。
新しいサイドリップと交換を行ってください。

メンテナンス



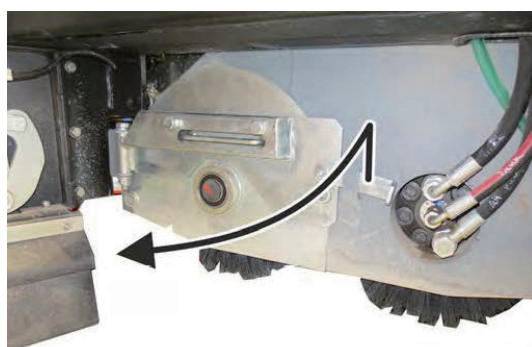
<メインブラシ・適正接触状態>
床との接触寸法 : 約5～6 cm

ブラシの面圧調整を行い設定してください。
面圧設定をお粉についても改善しない場合はブラシの交換を行ってください。

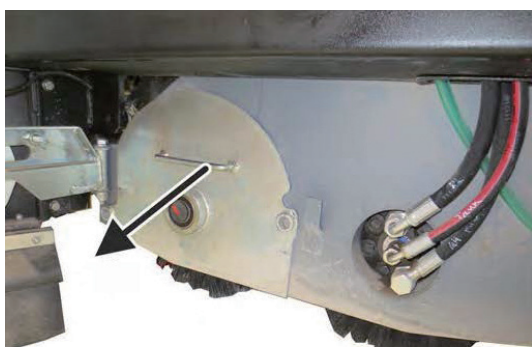


<メインブラシ・取り外し>
左右から各1本ブラシを取外すことができます。

カバーのロックを解除してください。
カバーを開けてください。



ロックを解除してください。
カバーを開けてください。

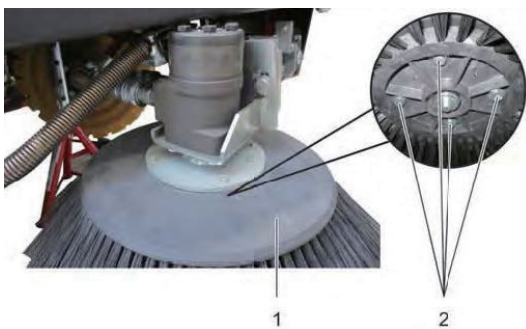


ベアリングリッドを引き抜いてください。



ブラシを引き抜いてください。
新しいブラシと交換を行ってください。

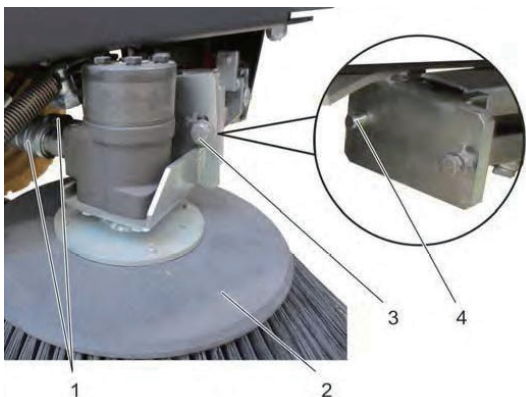
メンテナンス



<サイドブラシ ユニット>

- 1 サイドブラシ
標準 : 6.680-335.0
ハード : 6.680-336.0
- 2 スクリュー

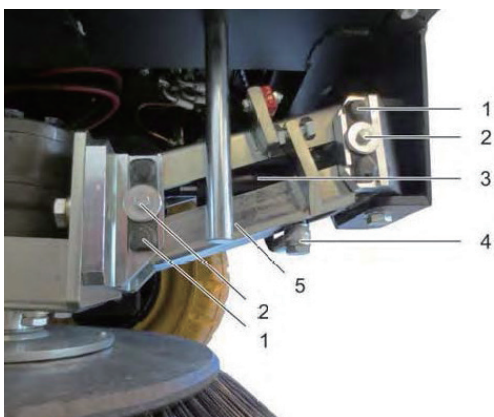
ブラシが摩耗している場合は交換を行ってください。
スクリューを取外してください。
ブラシを取り除いてください。



<ブラシの角度調整>

- 1 作動油ホース接続部
- 2 サイドブラシ
- 3 スクリュー
- 4 位置決めピン

路面へのブラシの当たりが悪い場合は調整を行ってください。
スクリューを緩めてください。
ブラシユニットの角度を調整してください。
スクリューを閉めてください。



<サイドブラシアームの固定>

- 1 ピン
- 2 スクリュー
- 3 昇降シリンダー 6.680-284.0
- 4 作動油ホース接続部位
- 5 拡張抑制ピン

作業時：ピンを引き抜いてください。
移動・保管時：ピンを挿入してください。



<スクラブ ブラシユニットへの変更>

サイドブラシの代わりにディスクブラシを取付けることも可能です。

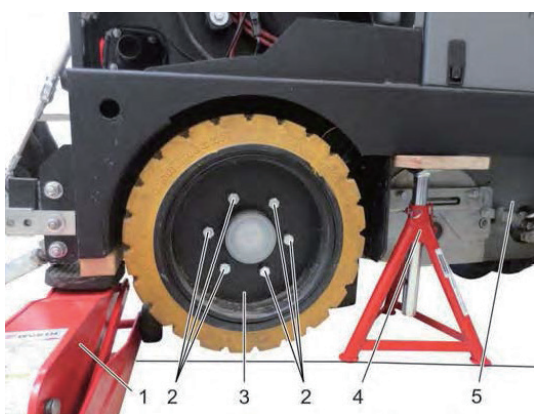
<注意>

エンジニアによる車両の有償設定が伴います。

メンテナンス



- 1 油圧ブレーキ
- 2 圧カスイッチ (ブレーキ)
- 3 前輪 (駆動輪)
- 4 走行モーター
- 5 後輪
- 6 ブレーキドラム



<後輪・交換>

- 1 ガレージジャッキ
- 2 ホイールボルト
- 3 ホイール
- 4 ジャッキスタンド
- 5 ブラシカバー

車止めを前輪と反対側の後輪に掛けてください。
ホイールボルトを緩めてください。
駐車ブレーキを解除してください。
ブラシカバーを開けてください。
ガレージジャッキで持上げてください。
ジャッキスタンドを掛けてください。
ホイールボルトを取外してください。
ホイールを取外してください。

メンテナンス



<前輪・交換>

- 1 ジャッキスタンド
- 2 ガレージジャッキ

車止めを後輪に掛けてください。
駐車ブレーキをかけてください。
ガレージジャッキで持ち上げてください。
ジャッキスタンドをかけてください。



- 1 スクリュー
- 2 保持プレート（ベアリング）
- 3 イモネジ

ハンドルを操作し工具が届く位置に合わせてください。
イモネジを緩めてください。
プレート固定用スクリューを取外してください。
保持プレートを引き抜いてください。



- 1 ホイールボルト
- 2 前輪（駆動）

ホイールボルトを取外してください。
ホイールを取外してください。

メンテナンス



<作動油・タンク>

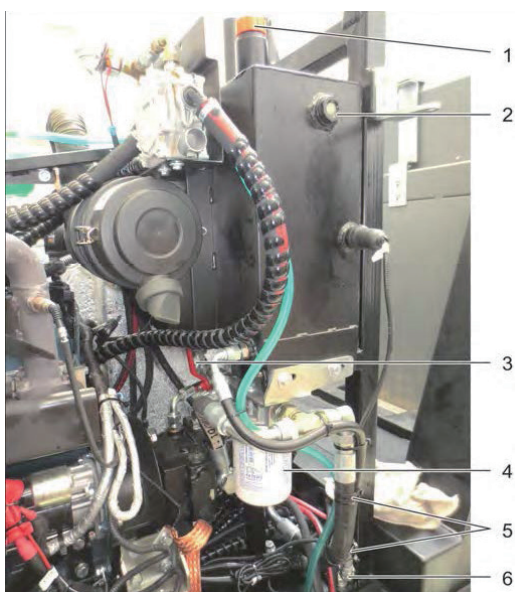
トラブルを回避する為に作業前に最大限の清潔を行う事が不可欠です。

油圧システムに粉塵が混入すると重大障害を引き起こす可能性があります。

- 1 作動油タンク
- 2 レベルゲージ
- 3 作動油充填口

作動油のレベルを確認してください。

レベルゲージ内に作動油が見えていること
必要に応じ作動油の補充・交換を行ってください。



<作動油・廃棄>

- 1 作動油充填口
- 2 レベルゲージ
- 3 バルブ
- 4 作動油オイルフィルター 6.680-464.0
- 5 インシュロック
- 6 ドレインホース プラグ

オイル受けを用意してください。

バルブを閉じてください。

作動油オイルフィルターを取外してください。

ドレインホース先端のプラグを外してください。

作動油を排出してください。

作動油充填口・オイルフィルター取付部位を清掃してください。

オイルフィルターのシール部位にオイルを塗布してください。

オイルフィルターを手で締めてください。

作動油タンクのオイルレベルを確認・補充・交換を行ってください。



<作動油・オイルクーラー>

- 1 ラジエター
- 2 オイルクーラー

オイルクーラーのフィンを定期的に清掃してください。

ボンネットを開けてください。

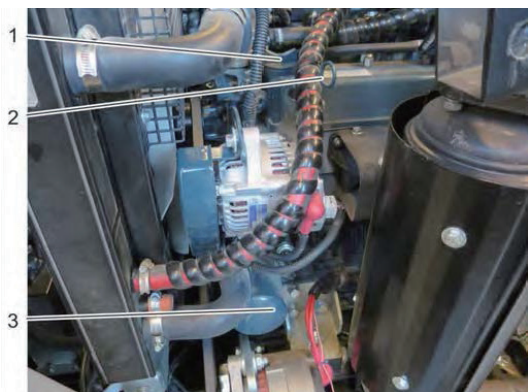
車両の前方 ラジエターの前にオイルクーラーがあります。

オイルクーラーのフィンを定期的に清掃してください。

<注意>

高圧洗浄は行わないでください。 フィンが損傷します。
柔らかいブラシ・圧縮空気（最大 0.5 MPa）・水道水等で汚れを取り除いてください。

メンテナンス



<エンジン・オイル>

- 1 燃料フィルター
- 2 オイルレベルゲージ
- 3 エンジンオイルフィルター 6. 680-470. 0

水平な路面に駐車してください。
オイル受けを準備してください。

エンジンを停止してください。
オールドレンプラグを取外してください。
オイルキャップを取外してください。
オイルを排出してください。
オイルフィルターを取外してください。
給油口・取付面を清掃します。
オイルフィルターのパッキンにオイルを塗ってください。
オイルフィルターをねじ込み手で締めてください。

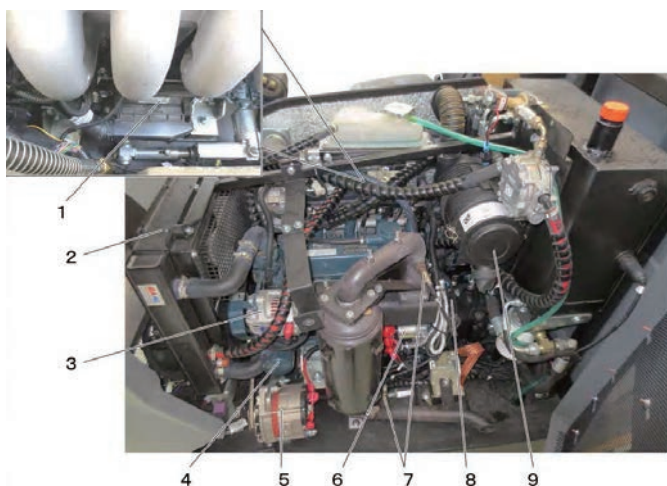
オールドレンボルトに新しいワッシャーを装着しエンジンに
組込んでください。 締付トルク：60 Nm

エンジンオイルを補給してください。
オイルキャップを閉じてください。
エンジンを約30秒作動させた後、停止してください。
5分間放置してください。
エンジンオイルレベルを確認してください。
オイルレベルは「MIN」と「MAX」の間に有るか確認してください。

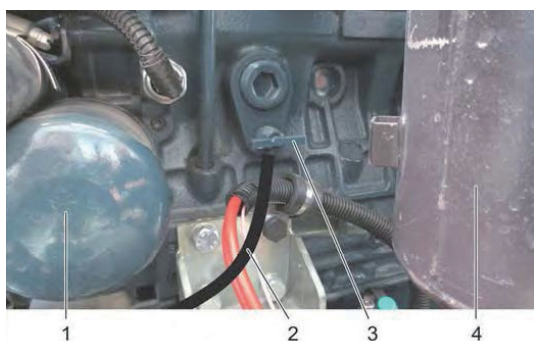
<注意>

エンジンオイルの入れ過ぎはエンジンに不具合を生じさせま
す。

メンテナンス



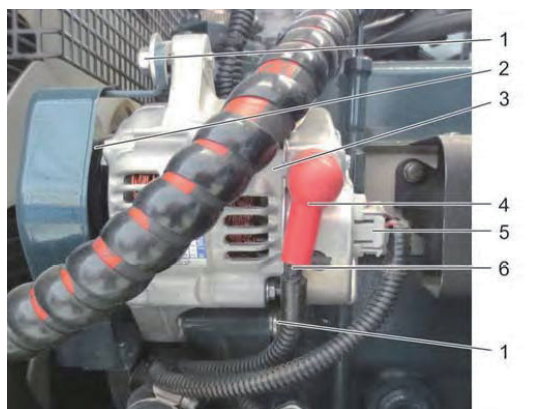
- 1 エンジンコントロールユニット
- 2 ラジエター
- 3 発電器・Vベルト：バッテリー用
- 4 オイルフィルター
- 5 発電器・Vベルト：タービン駆動用
- 6 スターター
- 7 排気ガス温度センサー
- 8 カップリング
- 9 エアフィルター



<エンジン・クーラントドレインコック>

- 1 オイルフィルター
- 2 ドレインホース
- 3 クーラントドレインコック
- 4 マフラー

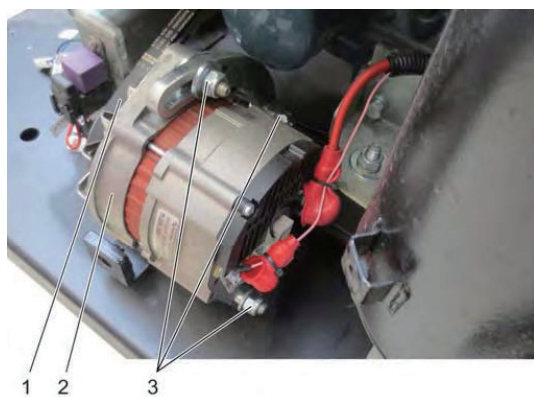
クーラントの受けを用意してください。
クーラントドレインコックを開けてください。
エンジン内部のクーラントを抜いてください。



<発電器・バッテリー用>

- 1 スクリュー
- 2 V-ベルト 6.681-157.0
- 3 発電機
- 4 端子カバー
- 5 接続コネクタ
- 6 接続ケーブル

Vベルトの状態を確認してください。
必要な場合は交換を行ってください。



<発電器・タービン用>

タービンは専用の発電器で駆動しています。

- 1 V-ベルト 6.681-157.0
- 2 発電器
- 3 ナット

Vベルトの状態を確認してください。
必要な場合は交換を行ってください。

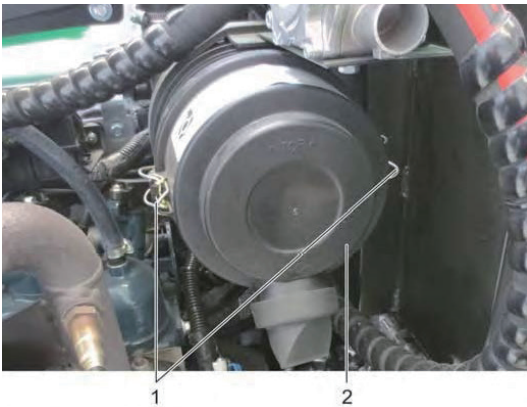
メンテナンス



<スターターモーター>

- 1 スクリュー
- 2 スターター M701
- 3 端子カバー
- 4 接続コネクタ
- 5 接続ケーブル

端子カバーを取外してください。
 接続ケーブルを取外してください。
 接続コネクタを分離してください。
 スクリューを取外してください。
 スターターを取外してください。



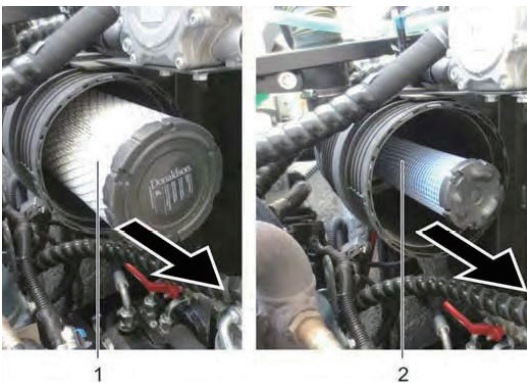
<エアフィルター>

- 1 ロック
- 2 カバー

埃等が無い清潔な場所で確認を行ってください。
 エンジンを停止させてください。
 ロックを解除してください。
 カバーを取外してください。

<注意>

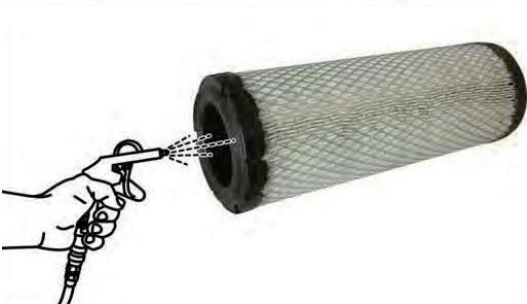
エアフィルターを取外した状態でエンジンは動かさないこと



- 1 エアフィルター 乾式 6.680-466.0
- 2 エアフィルター 湿式 6.680-465.0

エアフィルターを引き抜いてください。
 汚れを確認してください。

湿式エアクリナーは清掃はできません。
 交換時以外は取外さないでください。



乾式エアフィルターの清掃

フィルター警告灯が点灯した場合エアフィルターの点検を行ってください。
 圧縮空気 (0.2 Mpa) でフィルターの内側からブローを行ってください。 <最大6回清掃が行ます。>

湿式エアフィルターの清掃

圧搾空気で清掃は出来ません。
 汚れている場合は交換を行ってください。
 使用しない場合でも年に1回は交換を行ってください。

<注意>

組付けの際シール面の清掃を行ってください。

メンテナンス



<ヒューズボックス>

ハンドルコラムの右下にヒューズボックスがあります。

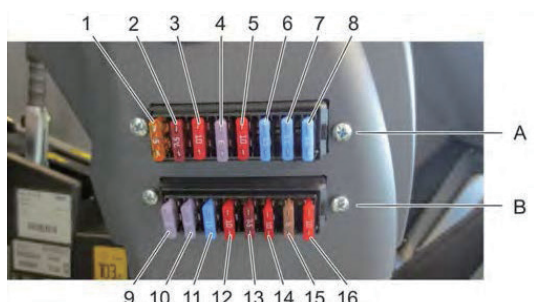
- 1 カバー
- 2 解除レバー
- 3 ヒューズホルダー
- 4 ヒューズ

<注意>

ヒューズが溶断している場合は原因を取除いた後、新しいヒューズと交換を行ってください。

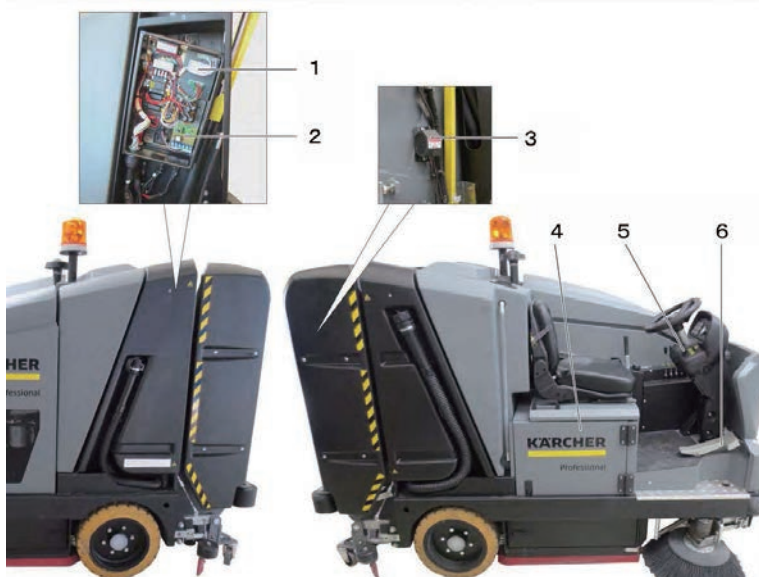
カバー両端の解除レバーを握りカバーを取外してください。

車両の保管は室内で行ってください。



A	X 173-1	容量	B	X 173-2	容量
1	制御ユニット	10A	9	ポジションランプ	3A
2	ブレーキランプ	7.5A	10	ポジションランプ	3A
3	回転灯	10A	11	ロービーム	15A
4	計器の照明	3A	12	警報システム	10A
5	ヒーター	10A	13	ホーン	7.5A
6	ブラシ昇降	15A	14	警報システム	10A
7	OP	15A	15	電磁バルブ	5A
8	エンジン	15A	16	スイッチ	10A

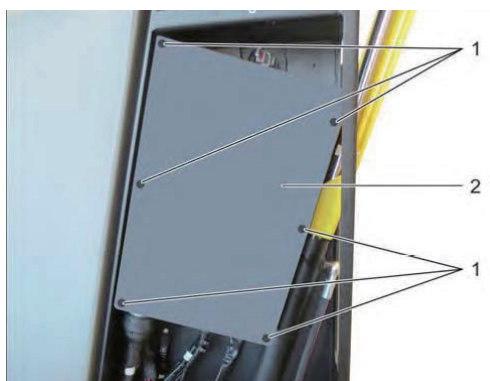
メンテナンス



<コントロールユニット>
汚水タンク側面に車両コントロールユニットが有ります。

- 1 コントロールユニット A700
- 2 トランスユニット
- 3 バックアラーム
- 4 バッテリー
エンジン制御ボックス
- 5 スイッチボード
- 6 走行スイッチ

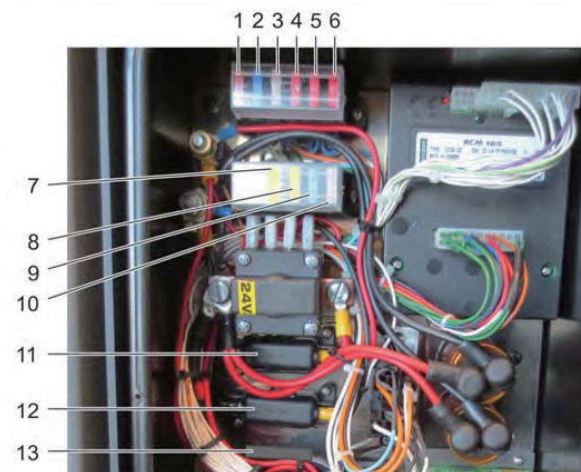
<注意>
車両整備を経験された方のみ作業を行ってください。
高圧洗浄機で洗車はおやめください。



ヒューズが破断している場合は原因を取除いた後新しいヒューズを装着してください。

- 1 スクリュー
- 2 カバー

スクリューを取外してください。
カバーを取外してください。
内部に制御ユニットが格納されています。



	使用部位	容量
1	スクイジー 昇降モーター 左	10A
2	散水ポンプ	10A
3	エンジン起動ロック	3A
4	スクイジー 昇降モーター 右	10A
5	サイドスカート 左	10A
6	サイドスカート 右	10A
7	ユニットコントロール DCM-07	20A
8	サービスユニット給電	20A
9	オプション	15A
10	バッテリー +12V	3A
11	サイドブラシ 右	20A
12	サイドブラシ 左	20A
13	発電機	70A

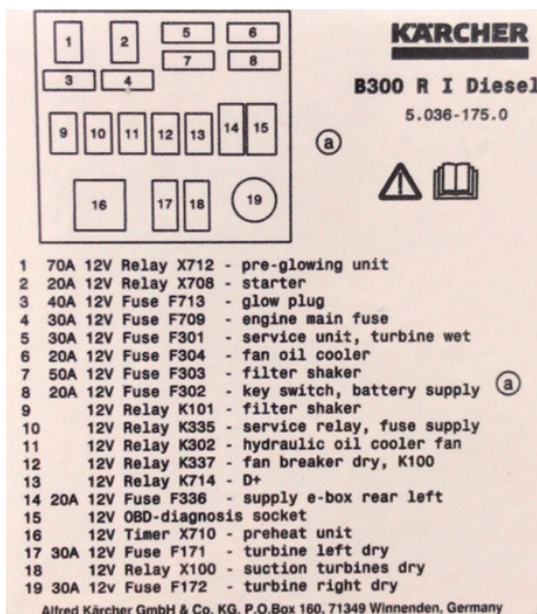
メンテナンス



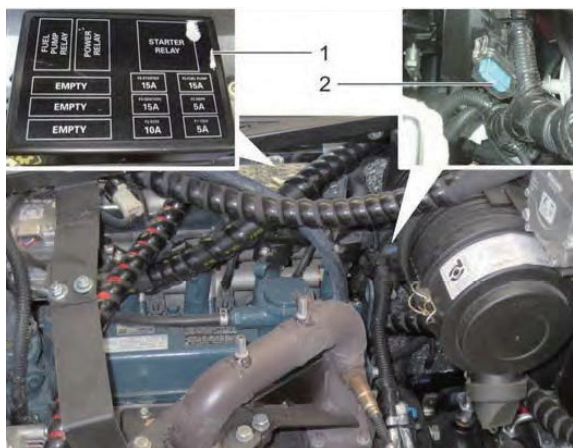
<エンジン制御ユニット>
シートカバーを開けてください。
サイドカバーを開けてください。

上部のスクリューを取外してください。
カバーを取外してください。

<注意>
車両整備を経験された方のみ作業を行ってください。
高圧洗浄機で洗車はおやめください。



部位	容量
1	グローユニット X712 70A
2	スターター X708 20A
3	グロープラグ F713 40A
4	エンジンメインヒューズ F709 30A
5	汚水タンク 吸引タービン F301 30A
6	オイルクーラー F304 20A
7	フィルタークリーナー F303 50A
8	キースイッチ F302 20A
9	リレー フィルターチリ落とし K101
10	リレー ヒューズボックス供給 K335
11	リレー オイルクーラー K302
12	ブレーカー コンテナ吸引タービン K337 K100
13	リレー (D+) K714
14	給電 リア制御ボックス F336 20A
15	OBD 診断ソケット
16	タイマー グロー X710
17	コンテナ吸引タービン 左 F171 30A
18	リレー コンテナ吸引タービン X100
19	コンテナ吸引タービン 右 F172 30A



部位	容量
1	エンジン制御ボックス
2	60A
F 1	VSM 30A
F 2	エンジンコントロールユニット 50A
F 3	圧力調整器 DEPR 20A
F 4	イグニッション 15A
F 5	燃料ポンプ 15A
F 6	スターター 15A

メンテナンス スケジュール

メンテナンス項目	使用 毎回	50 作業時間毎	100 作業時間毎	200 作業時間毎	500 作業時間毎	毎年	2年毎
外観	●						
灯火器の状態	●						
スイッチの動作	●						
バッテリー液の量・補充	●						
ハンドルのガタツキ	●						
ホイールボルトの締付	●						
タイヤの溝	●						
シートスイッチの状態	●						
操舵系 グリスアップ		●					
ブレーキの利き具合	●						
作動油の量・補充	●						
作動油（短いスパン）					交換		交換
作動油フィルター（短いスパン）					交換		交換
油圧ホース（損傷・油漏れ等）	●						
ダストコンテナの昇降状態	●						
ダストフィルターの交換	●						
自動チリ落とし作動状態	●						
ブラシの摩耗	●	調整					
ブラシの昇降	●						
メインブラシ周りのリップ		調整					
エンジン ファンベルト		点検		交換			
エンジン エアフィルター アウター 6回清掃が限度		点検			交換	交換	
エンジンオイル		初回交換		交換		交換	
エンジンオイル フィルター		初回交換		交換		交換	
燃料ホース+クランプ							交換
燃料フィルター		点検	交換				
燃料ウォーターセパレーター			点検	交換		交換	
エンジinkerラント						交換	
エンジンマウント			点検	点検			交換

<ユーザーメンテナンスの実施間隔>

作業開始前に毎日、実施してください。

定期的な安全性チェックを弊社へご依頼ください（定期点検の契約を推奨いたします）

ユーザーが実施する検査および保守作業の間隔は表に従い行ってください。

点検票の記載を推奨いたします。

<注意>

日常メンテナンスはお客様の責任で必ず行ってください。

日常メンテナンスが行われていない場合、保障が受けられない場合があります。

不具合が生じている場合は使用を中止し有償修理をご依頼ください。

メンテナンス時は車止めを併用してください。

トラブル対応

症状	原因	対策
エンジンが起動しない	シートスイッチが作動	シートに座る
	ブレーキを踏んでいない	ブレーキを踏む
	バッテリー電圧低下	充電・もしくは交換
	燃料タンクが空	給油後エア抜きを行なう
	燃料フィルターの詰まり	燃料フィルターの交換
	燃料ラインの詰まり	燃料ラインを確認・交換
	ウォーターセパレーターに水混入	排水する
	異種燃料を給油（ガソリン等）	燃料を全て抜く・エンジンOH
	燃料の粘度が高い	燃料タンクを洗淨
		季節に準じた燃料に交換
	燃料ラインにエア噛み	空気を抜く
エンジンオイルが劣化	エンジンオイル交換	
	エンジンオイルフィルター交換	
エンジンが不規則	燃料が少ない	燃料を補充する
	エアフィルターの詰まり	エアフィルター交換
	燃料システムの不具合	燃料ラインを確認・修理依頼
	燃料フィルターの詰り	燃料フィルターを交換
エンジンがゆっくり動く	バッテリー電圧降下	充電・交換
	エンジンオイルの粘度が高い	季節に準じたオイルに交換
	エンジンオイルが劣化	エンジンオイル交換
		エンジンオイルフィルター交換
	作動油が少ない	作動油を補充
	作動油が劣化している	作動油の交換
	作動油フィルターの詰り	フィルターを交換
自走ネジが開いている	自走ネジを閉める	
エンジンオーバーヒート	冷却水不足	冷却水の保水
	ラジエターの詰まり	ラジエター洗淨
	Vベルトのゆるみ	Vベルト調整
排気ガスが異常に臭う	エアフィルターの詰まり	エアフィルター交換
排気ガス中に若干の煙	燃料フィルター詰り	燃料フィルターを清掃
	水分離器の詰り	水分離器を清掃
	エアフィルターの詰り	エアフィルターを清掃
排気ガスが白煙	燃料に水混入	ウォーターセパレーターの水除去
	燃料ホースの詰まり	燃料ホースの交換
	エンジンオイルが硬い	オイル粘度変更
	燃料圧力低下	燃料ポンプ交換
	インジェクター損傷	インジェクター交換
	バルブギャップ異常	バルブギャップ調整
	圧縮比低下	エンジンOH

トラブル対応

症状	原因	対策
アクセルがニュートラルで徐々に動く	アクセルペダルの設定異常	設定を依頼する
燃費が悪い	インジェクター損傷	インジェクター交換
	バルブギャップ異常	バルブギャップ調整
	圧縮比低下	エンジンOH
スターターが回らない	バッテリー電圧降下	充電・もしくは交換
	キースイッチ不良	キースイッチ交換
	接続線の断線	接続ケーブルの確認
	スターターソレノイド作動不良	スターターを交換
	スターターギア損傷	スターターを交換
スターターがゆっくり動く	電圧低下	バッテリーを充電
出力低下	燃料フィルター詰り	燃料フィルターを清掃・交換
	セパレーターの詰り	ストレーナーを清掃・交換
エンジンが停止しない	停止ソレノイド不動	燃料バルブを閉め強制停止
		接続を確認
		停止ソレノイド交換
ゆっくり動く	アクセルが低速モード	アクセルを高速にする
	パーキングブレーキ作動	ブレーキ解除
	ブレーキ固着	ブレーキドラムOH
	タイヤがスリップ	タイヤを洗淨
甲高い音がする	作動油オイル劣化	作動油の交換
	作動油フィルターの詰り	作動油フィルターの交換
	作動油オイルが少ない	作動油の補充・交換
ブラシの動きが悪い	アクセルが低速モード	アクセルを高速にする
	油圧システムのトラブル	油圧系統OH 修理を依頼
	作動油オイルが少ない	作動油の補充・交換
	作動油オイル劣化	作動油の交換
	作動油フィルターの詰り	作動油フィルターの交換
ブラシが短時間で磨耗	ブラシの面圧が高い	ブラシ面圧を下げる
	床素材が粗い	ブラシを交換する
吸引が悪い	フィルターの詰まり	フィルターの洗淨・交換
	フィルター周りのシール劣化	シールの交換
	ブラシ周りのストリップ破損	ストリップの調整・交換
粉塵が舞う	ブラシの磨耗	ブラシの交換
	フィルターの詰まり	フィルターの洗淨・交換
	ブラシ周りのストリップ破損	ストリップの調整・交換

トラブル対応

症状	原因	対策
ウエット洗浄 結果が悪い	アクセルが低速モード	アクセルを高速にする
	ブラシ面圧が低い	ブラシ面圧を上げる
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	吸引スイッチがOFF	吸引スイッチをON
	清水吐出量が少ない	水量を調整する
	ブラシに紐ゴミが巻きつく	紐ゴミを取り除く
	吸引系統の詰り	詰りを取り除く
汚水が残る	タンクシールの劣化	タンクシールを交換する
	ダストコンテナが満水	汚水を排水する
	ノズルの調整が悪い	ノズルを調整する
	スクイジーが摩耗	スクイジーを交換する
	フィルターの詰り	フィルターを交換する
洗浄水が出ない	清水タンクが空	清水を補充する
	清水フィルターの詰り	フィルターの洗浄
	清水バルブが閉じている	バルブを開く
	清水吐出スイッチがOFF	スイッチをON
ゴミが取れない	フラップが下がっていない	フラップを下げる
	ブラシの磨耗	ブラシの交換
	アクセルが低速モード	アクセルを高速にする
	ブラシ面圧が低い	ブラシ面圧を上げる
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	ブラシが摩耗	ブラシを交換する
	フィルターの詰り	フィルターを交換する
	ブラシに紐ゴミが巻きつく	紐ゴミを取り除く
コンテナからホコリが出る	コンテナが満杯	ゴミを廃棄
	吸引スイッチがOFF	スイッチをON
	フラップが下がっていない	フラップを下げる
	フラップのストリップが損傷	ストリップを交換
コンテナが昇降しない	フラップが開いている	フラップを閉じる
	エンジン回転が低い	エンジン回転を高速にする
	ゴミが満杯・過積	ゴミを取り出す
	ヒューズが切れている	ヒューズを交換
	作動油が少ない	作動油を補充
	作動油が劣化している	作動油の交換
	作動油フィルターの詰り	フィルターを交換
ブラシ・ノズルが 下がらない	制御系の不良	修理を依頼する

点滅 エラーコード

点滅回数	エラーコード	説明	確認
2	22	自動キャリブレーションが正しく実行されませんでした。	自動キャリブレーションを実行
3	1D	<電圧が低い> バッテリー電圧が最小電圧 (1.5V / セル) 未満	バッテリー・接続線を確認
4	1E	<電圧が高い> バッテリー電圧が最大電圧 (2.35V / セル) を超えている	バッテリーを確認
5	5E	ブラシモーターの圧力が制限値を超えた	ブラシモーター・異物かみ込みを確認
6	5D	ブラシ昇降モーター損傷 昇降ユニットの電流値異常	構成部品を確認
7	FF	ノズル昇降モーター損傷 昇降ユニットの電流値異常	構成部品を確認
9	27	パラメーター設定不良	パラメーターの確認
10	2D	チェックサム障害 プログラミングシーケンスが中断	1分間放置後、再起動
11	28	プログラムメモリーエラー	修理を依頼
12	29	パラメータメモリーエラー	修理を依頼
13	2F	未登録	修理を依頼

補修部品

補修部品		部品番号	必要個数	
メインブラシ		ハードブラシ	6.680-369.0	2
		標準	6.680-368.0	
サイドブラシ		標準	6.680-335.0	
		PPL+ スチール混毛	6.680-336.0	
サイドディスク		標準ブラシ 白	6.680-338.0	
		ハードブラシ 黒	6.680-339.0	
スクイジー Set		耐油スクイジー Set ポリウレタン製	6.680-373.0	1
		標準スクイジー Set	6.680-372.0	
サイドリップ		耐油	6.680-370.0	2
		標準	6.680-220.0	
サイド防塵リップ		外側 大	6.680-278.0	2
		内側 小	6.680-276.0	2
ダストコンテナリップ		コンテナリップ	6.680-359.0	1
		ブラシュユニット横	6.680-361.0	2
		ブラシュユニット後	6.680-362.0	1
フィルター		ダストコンテナ 筒型	6.680-374.0	5
		汚水タンク 平型	6.680-534.0	1
タイヤ		ソリッドタイヤ 耐油性 後輪	6.680-376.0	2
		ソリッドタイヤ 耐油性 前輪	6.680-410.0	
ホイールボルト			6.680-925.0	1
エンジンエアフィルター		アウター	6.680-466.0	1
		インナー	6.680-465.0	1
エンジンオイルフィルター			6.680-470.0	1
燃料フィルター カートリッジ			6.680-467.0	1

ユーザー登録・保証

ユーザー登録をお願い致します。

ケルヒャー ジャパン株式会社では十分なアフターサービスを提供するために当社業務用製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。



＜ユーザー登録をいただいたお客さま限定＞

ご購入日から1年間の保証期間を
ご購入から2年間に延長いたします。

そのほか、お得なキャンペーンや新製品のご案内をお送りします。

＜注意＞

製造時に起因した不具合にのみ2年間の保証が適応されます。
使用に伴う劣化・損傷・故障は期間内であっても有償修理となります。

＜ユーザー登録方法＞

ケルヒャー ジャパン株式会社のウェブサイトからご登録ください。

サービス - 業務用製品ユーザー登録

- ご購入から30日以内にご登録ください。
- ご登録には製品名とシリアルナンバー（製造番号）が必要です。
2台以上ご購入いただいた場合も1台ずつご登録ください。
- S/N : x x x x x x の数字がシリアル番号です。

＜保証＞

保証規定については、保証書をご確認ください。

＜お問い合わせ先＞

ケルヒャー ジャパン株式会社 業務用製品コールセンター

T E L : 045-777-7410

登録情報について

お客様にご登録いただいた個人情報は第三者に提供することはありません。
尚、ユーザー登録情報は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために
利用させていただく場合がございますのでご了承ください。
当社の個人情報保護の取り組みについてはケルヒャー ジャパン株式会社のホームページ
でご覧いただけます。

修理

修理のご用命は弊社ホームページをご覧ください、
申し込みフォームからご依頼ください。

https://www.kaercher.com/jp/service/support_pro/repair_menu.html

この取扱説明書の製品は、「中・大型機」になります。
弊社支店への持ち込み修理と出張修理サービスが対象です。
※修理費用については予告なしに変更する事があります

お電話での修理のお問い合わせは
業務用製品コールセンター

受付時間 9：00～17：00

月曜日～金曜日（祝日、当社休日を除く）

TEL：045-777-7410